光

(6)

大正十年十一月號

◇照顧脚下……西田天香
◇對話(その四)……松下吉衞
◇雜感……富田清
◇智慧……須藤重
◇教育者の懺悔奉仕……小山敬吾
◇「新しき生活」……渡邊破竹
◇天香氏一行を迎へて……伊藤猛

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◇返照錄……遠近兄姉
◇高屋光家兄追憶錄……松下生
◇高屋君に就ての追憶……山村暮鳥
◇歸省後の高屋兄……齋藤慶信
◇懷しき友……櫻井透
◇最後に於ける高屋兄……若松せい

一燈園◇宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて活きん。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委れ佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らむことを期す。

諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成二就大圓覺一

別願　將二來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。よりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙ほ自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

照顧脚下

西田天香

問題のない時に申上げるといふ事は私にとつては難かしい事です。叩いて貰つてひよつとしたら鳴る事はありませうが叩かれずには鳴れぬ私であります。寄宿舍の幹事の方から何か來て話をせよと頼まれた時に、問題でもありますかとききましたら、別に問題と云つてはありませぬが、一邊話が聽きたいのでとの事でした。『ではどうか托鉢させて下さい。一燈園の人が二人三人出ますから、硝子拭きでも草取りでもよろしい、させて下さい。私も午後から參ります。仕事をさせてもらうたあとで是非と云ふ事なら私の失敗話でも聽いて貰ひませう。その代り幹事の貴方丈は差支なかつたら仕事を一緒に手傳うて下さい。それを御禮に貰ひます。』と約束したのであります。

今日來て見ましたら、はや一つの仕事が濟んだ後で、あとはテニスコートの草取りをする所でした。私も一緒にさせて頂き幹事さんと他に二三人の方が手傳うて下さつて、早く了ひ風呂を貰ひ、御飯も頂いて休憩して、今こゝに立つたのであります。ですから難かしい話を知つた顔して貴方がたに申し上げるのではない。失敗した事を懺悔するまでのことです。さう思うてかたくならずに聞いて下さい。

初めの失敗は斯うした事でした。私は幼少の時から極めて平凡な者でして至つて氣の弱い質でした。學校から歸りがけに連れの中の强い者は蛇を捕へてそれを割いて見たりする者もありました。私は震ひ上つて眼を覆うて歸つたものです。家の「くろ」に嚙ましてやるなど云はれて紙や筆墨をごろつかれた事もありました。泣きみそといふわけでもなかつたですが、喧嘩などはした事は無論なく、又しかけられた事もありませなんだ。さうした調子で年老の手に育つて無事に十五六になりましたがその頃から商賣の見習ひをして一日に四五里の田舎道を一反風呂敷に力相應背負うて得意廻りをした事もありましたがどうも中學校へは行かずじまひでありました。こんなたちのものもだん〱地方の青年會などにあたまを突込み、その幹事長になつたりして、いつのまにか、妙な處に力こぶを入れることを覺えました。

其頃地方問題で知事に對して談判せねばならぬ事が起りました。所謂大擧して四五十名縣廳へ押しかけて行つた事がありました。その時の先驅になつて何かと黄いな口を時の知事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に叩いた事があつたのですが、それが逆緣になつて、可愛がられて、二十一の歲、北海道へ開墾事業にやらされる事になつたのです。その時分は、北海道へ行つて開墾する人は徵兵に行かなくてもよいのでありました。隨分ちよつと行つた形をして胡麻化した者もあつた樣ですが、私は氣の弱いせいであつたのか或は眞面目だつたのか、やる位なら何處までもやりたいといふ志を立てまして、處女事業として、國の仕事を棄てゝ移住したのであります。知事は私に激勵の言葉を與へました。

『龍蛇の逸する所雲起らざるなし、虎豹の嘯く所風生ぜざるなし』との句を書いて私に呉れ、又色々の品を引出物として呉れた他にこれは大事に讀んで呉れと云うて渡されましたのが報德記でありました。

恰度それが私の一番初めの得意な時でして、何でも日本銀行の總裁に迄は屹度なつて見せるなんて勝手な熱を吐いてその仕事に取りかゝつたものです。田舍ではませた方であつて狹い處のこと故、ちよつと問題になつた方です。二年程やつて歸つた時などは、北海道の報告などして嬉しがつて居つた事もありました。今から丁度三十年前の事で貴方がたに比べればお恥かしい事です。盲目蛇に怖ぢずで、熊笹の中へ分け入つて若い時なればこそと思ふやうな元氣も可成あつて夜晝かけてきばつた事もありました。

當時諸方から團體移住を計畫した元氣な人達が北海道へ集つて云はず語らず開墾の成績を競爭したものです。餘り尻尾へも附かずに二三年は得意になつてやつて居りましたが、初めての仕事に有り勝ちな頓挫が參りました。それは小作者側との利害の衝突でした。今から考へれば矢張一種の勞働問題でした。弱い性分ではありますが、徹底しなければ承知せぬと云ふやうな性は持前でして、その當時柄にもない大きな問題にまでその小さな事件を引延したのであります。そんな事はどんな仕事にでも有り勝ちなことで、神經質に又餘り理窟つぽく考へるは實業家としてはならないのです。陰忍し又陰忍し、ぢは〳〵と餘り極端にならぬやう游いで行くのが賢い行方です。又衝突とてもそれが何時までも然うあると限つた事ではなし、又何處にでもある事であるかと思ふと止み、止むかと思ふと又色々な姿で現れて來るものです。そんな事を判明（ハツキリ）しようと云ふ樣な考へは思想上の一種の潔癖性であるのですが、性分と云ふものは仕方のないもので、それが何處迄も大きくなつて「資本とは何ぞや」と云ふやうな經濟上の原則まで疑ひ出すやうになつたのです。既に疑へば疑つたなりに行つて居る譯にはゆかぬ。何處までもそれをつきとめたい、つきとまつたらそのやうにやつて見たいと云ふやうな事になりました。

彼の知事から贈られました報德記は御承知の通り二宮先生の語錄であつて四つの德をもつて立てゝあります。一には勤勉、二には節約、三には分度、四には推讓とかうであります。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

初めの二つは江州に生れた私には眞似だけは出來るが、四番目の推讓の徳だけはぴつたり行ふわけに參りません。一方小作者と寢食を共にし、一方資本家と資本を共にし、私の手許では一つになつてゐる爲めに、利害の衝突に對して兩方へ推讓の徳を守らうとすると私は裸になつて了はねばなりません。又其の時代にでも資本の力は今よりもつと權威を有つて居ました。資本を認め利子を認めします時には多くの勞働者側が蹂躙されて居るのであります。今は勞働者側も仲々その權利を主張するに便宜になつて居ますが、その時分は唯盲從してゐる許りでした。問題にすまいと思へば別に世話もないのですか、一方小作者と毎日同じ暮しをして居ますのでその慘めさを思はぬ譯には參りません。推讓の徳をどうしたら實行できるか、資本といふものは利子と共に認めなければならぬものか、この二つの難透な問題の爲めに若い得意な私の鼻柱は強く打たれたのであります。輕はずみしたとは思はなんだのですが、正直に行き詰つたのであります。

先程も申した通り、思想上の潔癖性で、いゝ加減に曖昧にすることの出來ない私はとう〳〵自分の利益と云ふ事を棒に振つてその問題解決の爲めに家庭をひつさけて起つ事になつた次第であります。

第一の難關は斯くして深み〳〵と這入つて行きました。その以後の事でした、日清戰爭が勃發しました。戰爭といふとは十年の役にまだ五歳であつた私には初めての驚異でした。別して大きな強い國らしいと思うてゐた清國との戰爭、私許りでなく、開戰當時はどうなる事かと朝野共に愁ひて居たのであります。國の人で當時北海道炭坑鐵道會社の社長をして居ました、西村捨三翁なども少々興奮の態度で色々の方法で恤兵を激勵したものです。爭ひの絶對に嫌ひな私は前の推讓の徳と資本問題の外に戰があつては駄目だといふ問題を引きかつぎました。大きな國同志が戰つて何方が勝つたとてつまらぬぢやないか、何故戰爭しなければならぬのか、かうした疑問もそのまゝにして忘れて了へなかつたのです。一體平和といふ事はどうした氣持から生れるものであらう、出來るとなら自分は少しも爭はない生活の上に立つて見たい、かうした柄にもない問題を然も自分の眞劍の問題として背負うたのであります。これが第二の行き詰りといつたやうな風になつて、私の心身に押し寄せて參りました。種々の仕事を片手にはして居ましたが私自身の內容は全然この二つの問題と首引して居たのです。その間暫く身を持ちくづしたり生活も荒んだりは致しましたが片時もこの問題を忘れた事はありません。

第三番目の難關は親友に裏切られた事であります。是れは私も無論惡かつたのではありますが、兎に角この友ならばと思つて賴つて居た友人に、後から考へればその人の已むを得ん事情の爲めではありましたが私は裏切られた事になつたのであります。これは私にとつて世の中に本當に信賴する事の出來る人は一人も無いと云ふ深い感じを與へました。底知れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ぬ寂しさを覺えました。けれども私は勇氣を失ふ事は幸ひに無かつたのです。一つ剝がれ、二つむしられ、三つ叩かれといふ風になつて來まして私の所謂潔癖性は益々緊張して參りました。

『どこまでも行つて見よう、破れかぶれだ。妥協せずに行く丈け行つて見よう』

その時トルストイの「我が宗教」が手に入りましてその行詰りから眼を開く一つの力を得ました。知らず識らず受けた佛教の、釋尊の乞食を行ぜられた事などから勵まされたりして、私の新生活が生れて出たのであります。丁度三十二の歲で、確か明治三十八年かと思ひます。この變り方は相當に極端なものでして三年間程は狂人扱ひにされたのも無理はありません。家庭は落花微塵になつて了つて私は唯仕事着一枚の路傍の人になつたのであります。けれども私の內面の歡喜は強大なものでした。懸崖に手を撒けて絕後に蘇へるとか、大死一番とか、喝とかいふ樣な文字は然うだ〳〵と肯かれました。新らしく生れて出た生涯は我やら全體やら分らなんだのであります。權利も義務も自分が踏んで居る山から見れば舊生涯は紫雲を隔てゝ遙かに麓にあるやうに思はれました。さうして身體に自分がすると云ふ氣持もなくて順(スナホ)に他樣(ヒトサマ)の御用をさせて貰うて居りました。この外から狂人と見えて居た間の私の內容は非常に豐富なもの有難いものでありました。

所が第四番目に斯うした面倒な問題が起つて參りました。それは色々な人が突然に私の生涯へ飛んで來られた事であります。或は人の妾の身分の人がだしぬけにその主人から勝手に暇を貰うて私の方へ飛んで來るといふやうなこと、一つは若手の俳優がその生涯を振り棄てゝ乞食生涯の群に這入つたといふやうな事であります。

前述の妾の人は私の知つてる人ではありません。何か感じたものか、毎日遊んで暮して居ればよい身を持ち乍らそれを振り棄てゝ來たのであります。鄕(サト)家は藝者家で、姉もあり、父親もありました。この急な變り方に驚いた家はそのまゝには決して放つて置きません。厭で歸つたならそれも仕方がないが、そんならもう一遍藝者に出るがよい、かう勸められても彼女は勿論承知出來る筈はありません。

『どうぞ私に許して下さい。私の思ふやうに働かせて下さい』

と許可を得るまで家で女中の働きをして居りました。妾の生活をしてゐた時分は何の不自由もなく暮して居るにも拘らず毎日〳〵の病人のやうでありましたが、襷をかけ、釣瓶を手繰るやうになつてからは血色もよくなり、身體も丈夫になつて行くのです。御馳走でなくとも旨くて、やはらかい着物でなくとも輕う着られます。この意外な實驗は彼女をして間違つた生活と眞の生活とを判然分けさせる事となつたのです。

『そのやうな事をしてゐては指の節が固まり、手の皮が厚くなるし、顏が赤らみ、肥つて了つて、藝者としては價値が下るぢやあないか。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

姉と親とは切りに折檻致します。宗教的になつた身體といふので或時は壇那寺の坊さんを喚んで諫言して貰ひました。坊さんの諫言には「河性は河で育つといふ事がある。郷に入つては郷に從へといふ事もある。矢張り皆の云ふ通りにするのが一番よい事だ」と云ふ樣な事でありました。「廓へも說教師は這入る」かうした慰めがましい事より外に言はんのらしい、無理もないことです。色々の手段で强意見を重ねられても彼女はびくとも致しません。時々私を喚びますのでそうつと行つて見ますと、話すことは益々冴えて來て純になり且つ强くなります。壓迫は益々きつくなる。或日彼女は密かに鏡に對つて考へました。

『このやうな顏の持主であるからだ。』と何時の間にか用意した燒鏝（こて）で燒きかけた事がありました。姉は益々心配するし、父親は又斯う云うてきゝません。

『何ほうお前が孝行はすると云うたとて、今までお前をやはらかいものづくめで育てゝ來たわしが、お三どんの收入で孝行されたとて嬉しうはない。わしは死ぬまでかうして養はれにやならんのか。』とかうです。

二三日經てから姉は癇氣を起します。さうした事が手にとるやうに私の耳に這入ります。私は此方から賴んだのではなし、謂はゞ赤の他人の事、それに誘惑者のやうに思はれて痛い非難を受けました。今住んでゐる鹿ケ谷は俊寛の棲んだ處骨接ぎの名醫の居つた處として聞えてゐる外に、松蟲鈴蟲が或は私かに宮中を脫け出て來て、住蓮坊、安樂坊に師事して尼になつたことを以て名高い處でありますが、つくづくその當時の事が偲ばれます。念佛行道は朗々たる稱名の聲と共に一種の極樂の感想が顯はれます。捉はれた生活よしやそれが榮耀榮華を恣にすることが出來ても自由な澄み切つた境界を味はうては到底歸へることは出來ますまい。「お歸へりなさい」と云うたとて死を決した二人の女性を何うする事も出來なかつた住蓮坊、安樂坊がその請を許して頭を剃らせたお咎めが遂に加茂の河原に梟首される事になつた彼の昔を想ふと、彼女のやうな事がだんだん嵩じてどんな惡しみを何處から受けるかもしれぬと思うた私は寢覺めの惡い事もあつたのです。彼女は遂に此方からも賴んだので三年間色々の條件附きで藝者になりました。

當時私はこんな弱い事で折角の彼女の發心を鈍らして了ふのであるまいかと、さうした方面からの濟まない感じも致しましたが、一面に妥協はし乍ら一面に深い祈りを持つた彼女の藝者の生活の中から却つて種々の因緣を結んだ事になつたのです。

一人の役者は更に痛切な實例を示してくれました。彼は私と相識の靑年でした。然し私が新生涯に入つた事は通知もしなければ、彼に會ふ機會もなかつたのに、或時飄然とやつて來られて、

『これから新生涯に這入りますどうか導いて下さい』と眞劍

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

な面持で挨拶されました。よく／＼の決心が面に表はれて居ますので思ひかへさせようとて到底出來る事ではなかつたのであります。

山科は勸修寺と云ふ所に二人の同人が農的生活で托鉢して居ります所へ（着て來た着物をスッカリ脱ぎ替へて頭髮まで丸刈にして）行かれました。それがその郷里や、贔負先の大問題になりましたのでこれも隨分甚い目に會はされました。忘れもしませぬが彼が家出した時の書置きを見ました時、その發願が正しい條理と尊い志願とを具備してゐたことが分りました。文章は極めて簡單で、文字も無論幼稚なものでありましたが眞劍な氣分が溢れて居りまして、思はず襟を正しく致しました。次いで理由をきゝますと一つとして尤もでない事はありませぬ。その中かういふ事がありました。『御承知かもしれませぬが俳優の名の出ますのは伎倆の如何に因るのは無論ですが一つは贔負客の多い事が原因になります。それには連といふものがありまして、誰々を買へば何百の客が這入る、誰々は何千といふ風にちやんと計算が立つのであります。それで役者の內幕は出來る丈け交際を廣めて贔負の客を多くする事が必要であります。それには媚も呈さねばなるまいし、厭な坐席もつとめなければならぬ。それは我慢するとしても、辛抱の出來ない事は母人がお參りの連中になつてそれを因緣として芝居見に來てくれと、謂はゞ一種の運動めいた事[illegible]です。贔負の人も別に怪しみもしませぬ。然し乍ら幸か不幸か少しく道といふものに眼の明いた私は信心を利用して純な家庭の人々をいかゞはしい芝居道樂に引出す事は何ぼう罪な事かと深い戰きを感ぜずには居られません。』とこのやうに彼から聞いた事です。成程それは尤も以上の尤もな事です。然しこのやうな事を云うたとて彼の周圍のすべては聾です。遮二無二彼を引き戻さうとします。彼の贔負客の中には基督教者もあり眞宗信者もあり、日蓮宗徒もをりましたが、彼のこの變化が宗教的發心であることを解して、各々その信ずる所を標準として彼の態度を極力非難しました。そのとばしりは皆私の所へ對いて參りまして、あの狸坊主、あの狐つき、といつた風に嘲られたのであります。それも無理はありません。私はその時も思ひました。

『何にも此方から勸めたのではなし、困つたことだ。』又思ひました。

『此方の立場を認めてくれとは云はん。たゞこの立場が間違つてゐると彼等が云ひ切る權威は何の宗旨に於いても、何處から得て來たのであるか。それは一つ檢べて見なければならぬ。』とかう思ひました。

こんな結果、私は色々の宗旨の先輩にギリ／＼の所を調べききまする事になりました。大抵は信仰と生活とがぴつたり一つになつて居ないので行き結つて居るのだと云ふ事を突き止めました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

その内次第に彼の家庭は亢奮して來ますと、遂に私に申ますには、

『屹度その願を許してやりますから、一度丈け歸つて來ますやうに』から云つて嘆願するのです。彼自身の發心からやつて居る事であり、又まさか彼の母親の話を本當とも思はれませんでしたが、私は彼に電報を打ちまして、大阪へ歸つて貰ふことにしました。直ちに彼はとある席貸家の坐敷で捕へられ、又藝者や舞子に罐詰のやうにされたり、女將や贔負客に取り圍まれたり、彼の志願を飜へさんとする凡ゆる運動の爲めに重圍の内に陷つて了ひました。

彼と私とはそれきり端書一本の音信もする事を許されません。僅かもなかの餡の中へ少し許りの文字を包み込んで往復した事などありました。それも長い間の拘着でやつぱり條件附きで今暫く舞臺へ出る事になつたのであります。然し乍ら彼はいつも云つて居ります、

『私の舞臺は寧ろ家庭と樂屋に在ります。』と。

彼の生活は普通の俳優生活とは全然違ふやうで、いつの間にやら世間は彼に「禪優」の名を與へました。今になつても無妻で居りますが、あゝした職業をして居る人としては恐らく禪僧に負けない程の純な身持と想像されます。彼の身體は俳優でありますが新生活へ色々な人を運ぶ爲めには可成り祈つこめて居りました。

彼女も彼もさうした事にはなりましたが、今から考へますと必ずしも全部の損失ではありません。が、その當時さうした事件が頻々に出さうになつて來ましたので私は非常に痛みを覺えました。一番幸福な充實したこの生涯を獨り樂しんでやつて居る事が他の人々にこのやうな道心を起させる、それは有難いとしても、それから斯うした渦卷を周圍に起させて多くの混雜が生じて見ればやり切れぬ、どうか爲なければならぬと弱い考を起しまして、頂いたお光にそうつと薄い絹を被せねばならぬ事になりました。

今から考へると皆な試錬ではありましたが、その當時は痛い筈であつたと見えます。それから暫く鋒鋩を現はさないで更に謙遜に、所謂聖胎長養をする事になつたんですが、少し肌障りがよくなつた爲めか連れの範圍が廣くなりました。諸方から色々の方々が訪ねて來て下さる、私は托鉢先にその人を預けて又他所へ行く。其處へ又訪ねて來て下さる。その仕事を讓つた後に又新しい托鉢先へ行く。斯うした調子にだん〳〵と連れが殖ゑて來る。又何時の間にか得意になつた樣であります。

或時、建仁寺の僧堂で六祖壇經の提唱を聽きました。何でも其の中の序文かを記憶して居ますが、六祖が坐具を展げて其の供養をさるべき土地の境を定められた時、何里四方に展がり、その内へ大きな一つの池が入つて了つた。周圍は樹蒼たる樹林であつたさうです。供養をした時の大守は其の池に大蛇が棲んで居るので若しも周圍を亂伐すればその大蛇が荒

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れて障害を爲すであらうから、其近傍だけは手を附けぬ樣にと忠告したに對して、六祖は「我こそはその大蛇を成佛さすべし」と云つて池の縁に立たれたさうですが、すると俄かに一天掻き曇り、凄い雲が降ると共に龍となつて六祖の前へ現れて來ました。六祖は靜かに喝して、『汝大身に現ずる事を知りて、小身に現ずる事を知らず』とか申しました。それを聞いた龍は忽然と姿を消して間もなく六祖の足下に小さな蜒蚓のやうになつて現れました。六祖は非常にこれを賞めて、持つて居られた鐵鉢の中へそれを捉へて入れ、『善哉々々』と賞讃せられたと云ふのであります。

何處やらに得意になつたらしい模樣を内に感じて居たせいか、この『大身を現ずる事を知つて、小身を現ずる事を知らず』の一句が私の腸を九轉させたのであります。昔の事ではない外事ではない、蛇は卽ち自分の事、大身を現はす事にはなり易くても小身になつて鐵鉢の中へ掬ひ込まれる事は出來難い。

『全くこれは自分の事だ。我れ今日より正にこの蜒蚓たるべし。』と思はず私はひれ伏した事があります。これも一つの鐵鎚で、誰にも洩らしませんでしたが隨分痛い棒喝であつたのです。

それから又更に〳〵謙讓になつて歩ませて貰つた事二年許になつた頃でしたが、この立場に變つた人に一人の精神病が發生しました。その人の用意が充分でなかつた事や家族に對する愛着の爲めにぼんやりしたせいでもありましたが、然し發狂されて見れば今更その人が悪いのぢやとも云つて居られません。他に靜坐とか專門の僧堂から色々な强い批評を受けましたのでつひふら〳〵と何か自分の知らぬ障りがこの立場にあるのかしらんと戰ぎました。

これも六祖かと思ひますが何氣なく讀んだ中にかうした言葉がありました。

『威音王以後之無師獨覺者天然外道也』とあるのを見まして甚く胸を打ちました。兎に角自分は無師である、色々の事で導かれた師匠はあつてもこの立場は謂はゞ獨創である、無師である。誰にも印可を得た事はなし、又得ようとしたとて誰が與へて吳れるでもなし、已むを得ぬ事ではあれど若しも此の立場が天然の外道であつたならば何うしよう。何處までも生命がけで信ぜられるものではあれど、立派な悟りを開いた人でも誰かに檢べて貰ふ事になつて居る。天然の外道が知つた顔して少分の所得に得意がつて居るのであつたら自分は恐ろしい僭上な態度である。と此時は總身の肌に粟を拵へて人知れず震ひ戰きました。何處へ持つて行つても「そんな事までせんでもよい」と云はれるに定つて居る、又言はれても何うにも爲る事を得ぬまでの一つである。若し地上に人師として肯かれぬとすれば、誰から印可をとるべきか、僭上ならば誰が僭上と云ふのであるか、外道なりと喝破するは如何なる權威を持つて居るものか、さるにても威音王とは何の事ぞ、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

威音王以後の無師獨覺が天然の外道ならば、それ以前の無師獨覺は外道ではなかつたのか、威音王とは何ぞや、威音王とは何ぞやと一日二夜は厚さを知らぬ鐵條綱を前にして後から速射砲で射續けられるそれのやうに覺えたのであります。

斯うした時に何時でも私は他人には云はぬ、頼らぬ、又威音王といふ文字を何かの參考書で檢べて見ようともせぬ。きり〱になつて、自分が死に、又死に、又死んで行くのであります。背水の陣を布いて出て、家族も養はず、家督をも嗣がず天地の間に此の身體さへ人の養ふに任せて置く自分にとつて、棄つべく死ぬべきものは唯心意識のみとなつた。果然、威音王の意義が明かになつた、師匠は人師ではなかつた。投託は本來のお光からの直接であつた。然し其れは靈山以上の事、我と意識する者に何の得意になり得るものがあらう。懺悔々々得たり顏せし我の醜さよ、穴へも這入り度き心地がして肌の粟は更に汗淋漓となつたのであります。

これが六回目の大鐵槌でありまして、今から想ひ出してもぞつとする位です。爾來幾年、唯愚魯の如く、懺悔と奉仕をいそしみましたが、お光の力は次第に、よい友達を惠まれまして、大した過誤もなく、だん〱明るうさせて貰ひました。然しまた鐵槌は終りではなかつたのであります。先年義理の弟が死にましたかそれは私にとつても、又この生涯にとつても少なからぬ打擊でした。

一燈園の生活は何にも無くともよいと云ふ事を證明するが受持ちです。餘りに世界が所有慾に眩惑して居ます時に、無所有の權威を證明します事は最も必要な事でありますが、物を持てば何うしたらよいかと云ふ事も亦大切な問題であります。自分からは絕對に求めはせぬ、然しお光によつて預かつて呉れ、乃至貰つて呉れと云はれた財物はどうした方法で保管し、淸算し、分配したらよいかといふ事もお光によつて立案する必要があるのです。義弟はその方の受持をすると云うて居つたのです。

『兄さん、貴方の態度を非科學的だと人が言ひますが今に私はそれをもう一段高い調子の科學的な態度で證明してやります。又貴方は無所有の權威を何處までも證明して下さい。私は反對に所有の規範を貴方から聽いて證明して見ませう。』

『どうかよろしく頼む。』斯うした默契をもつて力にして居た義弟が、多年私が世話して居つた或る事業を未完成のまゝ私に托して死んで行きました。私は一人の身體で二人の事を扱ひます。この財物を扱ひますには、根柢ある規範を有つて居まして、少しも取り亂さず、所謂勞資問題に就いてお光よりする建設的な方法を有つては居りますか、實際問題を取り扱ひまする途中において、意外又意外な逆境に遭ひました。それは又それなりに根柢の自信を少しも動かさぬ事ではありますが、一時の頓挫の責任を避けるわけには參りませぬ。それは男らしく背負ひます然し玆に困つた事は、その二つの仕事を一つの身體でやつて居る爲め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に起つて來る眞面目な人達の不安の爲めに、一燈園生活のそれをもつまづかせる事になり勝ちな事であります。

一燈園生活だけである時は「そんな事許りして居て假令それが徹底して居るにもせよ、後に殘つた人と物とは何うなるか」と云ふ非難と忠言とをおつかぶせられる。又假所有の規範を作らん爲めに、實際問題を扱へば「それ、一燈園丈けではやり切れぬではないか」と又非難を浴せかけられる自分は二つながら已れに必要はない、唯必要のある人々の爲めに證明するまでの事であるのに、少し手違ひが出來ると斯うした心配をさせる事になる。これは隨分大事件で、昔の聖者達も持てあました問題であります。現今は又世界的の難問題で、一朝一夕の事にはゆかぬ。私の立場は非難のない所を通るが爲めにこの暗礁を避けることを許しません。又不二の御光を賴つて此處をせんどと祈つたわけであります。未だにこの瘡痍は癒えませんながら大切なお友達にかけた心配に對しても濟まぬ勝になつて居ります。けれども大方の見當はつきました。前の幾回かの何れの鐵槌よりも一番强く感じたのであります。これも不知不識の間に頭を擧げた一種の自惚の爲めであります。複雜な世界へお光を具體化して出る事は如何にも困難な事であります。

最終のお叱りはつひ此の間受けました。東京から歸へりかけに豐橋に下りまして田原町に寄つたのを始めとして五ケ所[illegible]て來ました。第一の所で賴まれたのは揮毫でありました。よい氣分で賴まれるものを何うして氣取つて斷はられませう書きたい事は些かもないが、賴まれるのを斷はる氣にもなれぬ私はちよい〳〵惡筆を揮ひました。困つた事には書く事を知らぬ。寒山詩の一つや二つ、維摩經の偈の如き、或は勝手に作つた無韻の詩、興に乘ると啓を書いたり念佛を拜書したりした事もありますが、うまく自分の心持をぴつたり云ひ現はす句才がない。こんな事を考へてる間に神韻は飛んで行く。厭な氣持で書いた後で眺める事が屢々です。又書き出すと果てしらない、何うしたものかと祈つて見ました。所がやつぱり何時の間にか自分の高慢がまざ〳〵と出て居たのです。神樣に叱られました。

『書くな、調子に乘るな、よい氣になつて、下らぬ事をするでない。よし賴まれたとて已れを忘れぬがよい。お前のする事でないうつむいて托鉢のみをして居ればよい。馬鹿！』と連發的に叱責せられました。謂はゞ此れは私の主觀と主觀以上の者との自問自答ですが主觀以上のそれは何時も私の無上の權威であります。私はどうするわけにも參りません。默つて祈つて居ります。然れども前に展べられた紙と賴んだ人とはそのまゝであります。何とか挨拶せねばなりませぬ。

『どうぞ托鉢させて下さい。それ以上をすることは私にとつて苦痛です。』かう答へて見てもまだ人からは許されません。[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『唯お光を讃へるがよい。その他何もしてはならぬ』托鉢をして、若しそこの家がお光を讃へるなら共に讃へよ。讃へる爲めに書くのならそれはお前の僭上にはならぬ。』
『では何うした事を書くのですか。』
『くどい。その時に書くことは自ら指示される。』
『はい。』と云ふやうな事になるのであります。
此處の街では漸う三軒托鉢させて貰うて、頼まれるまゝに三枚書かせて貰つた事です。
歸つてから其事を畫伯村上華嶽さんに云ひましたら『その書きなさる紙は、何ぞお光の象徴を刷りなさつてはどうですか、若し差支へなかつたら、私が一心に祈つてそれを描かせて貰ひませう。』と云つて呉れました。成程お光を讃仰すればよい。又讃美する人なら分ければよい。骨董品扱ひにされたり、又そんな積りで書いたりするのは止めねばならぬ。面白ろいことと考へました。少し油斷しますと直きに増長して來ます。その穢い、得意振るやうな心持が間斷なく、少しの油斷もねらつて頭をつき出します。その鋭敏さは驚くべきであります。金の慾から離れ得ても、性の慾からは離れ難い、性の慾から離れ得たとしても名聞の慾を離れる事が出來ぬと云ふ事を先輩から聞いて居りますが、ほんとに然うのやうです然れども、それを整理しきらねば自分で心も落ち着かず、又お光にも許されませぬ。何處まで行つたら修業の果てるものか。大乘起信論の中に、『三千大千世界を度濟しよう。と願ふよりは、一食の間に於いて正念を持するがよい』といふ事がありますさうですが。私共の前途は遼遠であります。
斯樣な始末で新生涯になりましてから十七年、今も皆さんに何か話せと云はれて來ましたもの丶、自ら省みて忸怩として居ります。歳とつたせいかも分りませんが、全く自分の心と身體と生活をお光に依つて整理する事のみに沒頭て居ります。何の暇あつてか、又何の得る所があつてか皆さんの前に話が出來ませう。若し皆さんに參考になる事があるとするならば、斯樣に私は頭を打ち通し、お光から叱られ通しであつたと云ふ事がこれからの皆さんの足元の御用心になれば幸なのであります。

（大正十年五月、京都帝國大學寄宿舍に於ける講話）

日まはり

三石勝五郎

便所の掃除が
心から出來る——
うれしくなりて私はやつと落付いた
法悅はみなぎり
日まはりは光に醉ひて
頭をたれた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

對話　その四

松下吉衞

A。議員をしているつてね。

K。あゝ。

A。少しわやりばえがあるかね？

K。無いとわ言い斷らんが今の場合僕達が進んでやるべきでないことだけわ明かだ。

A。馬鹿に悲觀的だね。同志も幾人か居ないわけぢやなかろうに。

K。それわ、ある特殊の問題について種々の關係から意見を同じうするハメになる者わ度々あるにわあるが、右を向いても左を向いても要するにブルヂョーア氣分だ。何も產れようわない。時に公明の論議をなす者があるかと思うと、場當りか賣名かの爲であつて、委員にでも指名されると、すぐ納まつて了う悧巧者であるのでガッカリさせられる。

A。そんなかね。

K。イヤ、議員になつての新發見でもないんだが、此處にわ——君の所もさうだらうし日本中も大概さうだし世界中にだつて例外の國わ幾つもなかろうと思うが——理事者指名で數名の常務委員というのが出來ていて、議案の運命は、完全に彼等によつて會議にかける前すでに決定されて了つて居るのだ。ところがまだその上もヘンなコブのようなものがある。元老とでも呼ぶのだらう。常務委員の方は諮訊機關として設けてもよい公の規定になつているが、此方わ何とも掲けてないから、適當の名を知らない。これわどういう人達がなつているかというと、ご多分にもれず、地方としての財界の巨頭これと腐れ縁に繼がる御用政黨屋幇間乃至その寄生蟲であることわ判をおしたようにきまつている。この四五の元老の專斷的意見によつて勝手に料られているのが、今日の自治なるものの實質なのだ。三十の坂わ越えてもまだ血わたぎる。自身とぶつかるとたまらんよ君。

A。さうだらう。僕わどうせつまらんことゝ思うものだから初めから問題にもせずにいるが。

K。德川家康が自分の歸依していた金池院の和尚のことを、その和尚の師匠に會つた時、「あの和尚の言うことわほんとうか」と聞いたら、師匠わ「あれの言うことわ皆うそだ」とハツキリ答えたといふ話があるが、政治わさとりの境涯から見ればどうせそうつまることでわないだらうけれど、民衆の生活が可なりにその支配を受けることを考へると、無關心にわなりきれない。

A。それわさうだ。たゞ政治の改善が議會を通して成されるかどうかわ疑問だらう。それで、今日、政治と云へば議會政治のことゝも言えようから、根つから僕にわ熱が出ないのだね。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

K。その點わ全く同感だ。

A。僕わ君が議員になつたと聞いて、殊に最高點で當選しているので、何か特別の抱負でもあることゝ思つてゐた。

K。議會政治派（パーリアメンタリズム）に對する僕の見解わ今も變りがない。理解ある幾人かの青年者に勸められるまゝに大童になつて選擧にたづさわり、當選したまゝに議席を汚しているのわ、啓蒙運動的意義を外にして何の理由もないのだ。だから、やめた方が民衆の目覺を促すに役立つようなら、いつでもその用意わしている。

A。それわそうある筈だ。

K。僕にとつてわ議會に出るということわ、今のところ可なりの努力と可なりの苦痛にさへ値する。卑劣な野心や低級な優越慾を最も露骨に出し合つて、あゝのかうのという爭論の渦中に投じて、濫發される土木事業――資本主義が地方自治に喰入れば必ずこの形をとるようだ――をまのあたりにしてヂツと正視して居る氣分つたらない。僕のところでわ請負師の變形みたいなのが議員にも常務委員にもなつている。何ぼ包容力を大にして自他一體感になろうたつてそれわ許されない。自分の無力ということを痛感させられる。僕わ、何の政略（ポリシー）も使わず正を正として邪を邪とする態度を採つてわいるが、反對者と議論を戰わした後の氣持の悪さつたらない。自分ながら自分の姿のみぢめさがいたわしく感ぜられてならない。風呂の水をわかすのに火のついたマッチ一本を水の中にほうり込んでるような思ひがする。

A。マッチで思い出すが、村井吉兵衛といふ人の洋行土産の談片に、フランスの何たらいふ名前わツイ失念したが――世界的富豪の家へ晩餐に招かれた折のこと、遠來の客を前にして、マッチ一本をムダにした給仕をその場で、戒めた富豪が村井さんに對つて「客人の前で奉公人をたしなめるなど禮儀を知らん奴と思召すでしようが、あの者の爲めになりませんから申しましたのです。どうぞお許し下さい。」と侘びたといふて感心されたことがあるが、資本家わ資本家で實にえらいところまで徹底しているぢやないか。敬服の外わないと思ふ。たゞ、それが「何の爲めに?」という段で、僕達と對角線的に立場を異にしているだけだ。お互も火の點いたマッチなら自重し合わなくちやならない。

K。一日も早く正して位地につかして貰はう。

A。み旨に叶うなら僕も愈出るとしよう。

――十、十一、十二――

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

雑感

富田清

唯一つの人生であれば唯一つの途に生きたいコレツキリしか無い人生だからコレツキリしかない道を歩みたい。人々よ人生とは今我々が生きてゐるといふ事實それより他にはないのだそれを本當に知つてゐるのか。そして遺憾のない生活をしてゐるのか、たゞ一度しかめぐり會ふことの出來ぬこの人生であることをお互に忘れたくない。

×

無常迅速、萬有流轉、それが被造物の運命である。人はその流轉にこそ生くべきである。

生者必滅、會者定離、その中に人は神を見ねばならぬ、神を見ねばならぬことは人の子の宿命である、かくて人は救はれねばならぬ。救はるゝ爲めにある者なのである。

×

たとへどんなに罪深いものであつても、けがれたものであつても私にとつてはこの現實の人生だけが惠まれた唯一のものである。たとへそれがどんなになやましいものでも、苦しいものでも、眼まぐるしい程に矛盾や爭闘やに充ちた、煩惱そのものゝ凡夫だとしても、私にとつてはいと愛しい唯一の人生である。私は唯それを一切を容れて、たゞどこまでも敬

虔に謙遜な心で生かして行かねばならぬ。

私は罪深くのみあつて更に光のなかつた去りし日の悔多き思ひ出も、今のこと菩提を上求する感謝の生命の源であつた。今の祈禱が深まることは、私からすれば自己がより偉大なものにされることであり、より多く光をかゞやかすことである。そしてあの消し難い罪の懺悔にくれる涙の底からこそつゝましやかにも惠まれた今の生活が産まれたのである。されば私は去りし日の一切の罪を今日の光のために感謝のうちにこそ認むべきであらう。おゝ罪さへ惠まれた私なのであつたことを今こそはハツキリと感謝し得る。かくて私はすべての人々、特になやめる人、罪に泣く人、しひたけられた人に對して心底から兄弟よといつて手を取ることが出來、私ならぬ光の愛を感じて、いよいよ私の内なる敬虔を强められるのである。

×

自分は近頃嘆異抄が少しわかりかけたやうに思ふ。そして深くうたれて頭を下げずにはいられない。これこそ人間の手になつたものゝうちで最も確かな、最もハツキリしたものだといふ氣がする。

×

また近頃「神の人タウレル」や「全き生活」等で「神の友協會」の人々やその信條やをごく少し知つた。そして何ともいふことは出來なかつた。今の私では唯々恐れ入るより他は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なかつた。心の底から恥かしかつた。「喜んで無名に終るの德」おゝ何といふ偉大な道なのか！

×

自分はそんなことから、常々考へさせられる。自分の不純さを告白したい。

1.自分は一燈園といふものにとらはれては居らぬか、そして一燈園生活といふもの托鉢といふものについてもとらはれた見方をしてはゐないか。それと何よりいけないことは一燈園といふものを何かの力にしたり、たよりにしたり、してはゐないか！、凡そこれ等の考への眞實の道からは去ること遠いものではあるまいか。

2.信仰生活とか、道の生活とか、祈禱の生活とか、眞實の生活とかを本當に衷心から欣求する。そのことはいゝことである。眞劍に求めることは尊いことでさへある。けれ共私はそれを不純さなしに生活し得たか！　やはりある種の傲りと誇りとを感じたり得意さの爲めに他人を思ふことにへだゝりが出來はしなかつたか。このことは罪の大きいものではないのか！

3.眞理の爲めに、正義の爲めにといつてよく論爭や、宣傳やをする。本當の人はせずにゐられぬといふ使命と責任さへ感じてゐるらしい。しかし私等にはとても出來ぬらしい。そのことがどうしても私の心に落付きを與へてくれぬ、省みて何となく私の傲慢さを見せられる。そしてだん／＼と清い心をけがされるやうに思へる。かうして私は益々少くいひ最も少く書かうと決心した。しかもその後私は非常に怠け者になつた。下らぬ遊びに心をひかれるやうになつた。萬事に元氣や忍耐がなくなつたこのことは未だ私にはハツキリとわからない。

何處よりともなく

伊藤　祐之

托鉢のほのかな疲れ
黄昏のうす暗き
三疊の間の壁に身を寄せ
靜かた味はふ
何處よりともなく
甘き歡喜
我が胸に流れ來る
あゝ今ぞ初めて識る
奉仕生活の深きめぐみを。——九・六・三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

智慧

須藤重

此れは書いて善いことか、書かないでもいいことか私は識らない。只私は神にこの書かれた全てをおまかせする。

見るからに愛らしい子供が二人、幼稚園の歸りであらう電車にのつた。二人は（書き忘れたが女の兒だ）車内を見た、そして顔を見合せた。大きな兒が言つた、立つてゐる人は一人も居ないことよ。清い喜びの聲が心から出た。ソウネ、みんな腰かけてゐるわねと小さな兒が言つた。

「いいわね」

と二人が今度は聲をそろへて言つた。二人の女の兒は一層輝かしく見えた。美しくなつた。あの安心した後の自由な、二人の物語り。私は涙ぐみました。私も安心しました。立つてゐる人がゐないでよかつたと思ひました。悲しく、傷つかないで濟んだよろこび。私は其の後も混み合つた電車を見ると、あゝこゝでも亦幾人の子供の心が汚され傷ついてゐるのではないかと思ふと堪らなくなります。

夜の冷たい大地の上、種々の蟲けらのゐる草の上、雨の降る時、風のある晩でも、母親に抱かれた幼兒は、幸福の全てを感じて、ねむります。死んで行かうとする母親にでも、幼兒は、抱かれてゐれば、安々とねむつてゐます。

きぬの、紅、青の羽根蒲團の上に、たとへ、象牙細工の人形のやうな美しいひとに抱かれてゐる時も、幼兒は母親でないことを知れば直ぐに不安を感じ泣き出して了ひます。

子供が四人いつもの如うに、Mさんの處に、唄を歌つたりお年玉とりに遊びに來ました。子供の内の一人がいつもの如うに門口に立つて「M先生」と呼んだ。家の中から返事がなかつた。

他の一人が續いてM先生と呼んだ。いつもの如うにお上りといふ聲も聞えない。

今度は四人が倶になつて「M先生」と叫んだ。病氣でねてゐたMさんの聲で「先生はぽんぽんがいたいので寢てゐます」とふとんの中から聞えた。四人の子供はだまつた。だまつたまゝ、くるりと後を向いて、その儘靜かにいつて了つた。

子供が、エダ豆の豆だけ食べておいて、皮を私に示して、「豆が入つてゐるか」と聞いた。

『無い』と私は答へた。子供は感心して了ふ。今度はどうだと、一つ殘したエダ豆を示した。

「一つ殘つてゐるぞ」と答へた。子供は不思議さうに感心して了ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

君は下手だ自分でも分らないのを私に示さなければだめだ。君が知つてゐていふのだから、僕も知つて了ふのだ。君自身、滅茶苦茶に出してご覧と私は言ふ。子供は感心してきいてゐて今度は、その通りにやる。

たくさんの内からヱダ豆一つを示して豆が有るかないか、いくつあるかときく。子供が食べるところ、子供が自分で數へてみるところが、今度は私にも見ることが出來なかつた。今度は分らないと私がいつた子供は益々感心して了つた。私も感心して了ふ。

子供に私が「おいおい子供遊ばないか」と呼んだら「ナンダイ大供遊ばないや」と答へて去つて了つた。

その日、不快であつたり又は平安でなかつたりするとき道づれに會ふ子供がみんな喜んで呉れない。神と倶にあるとき神の御光を拜してゐるとき子供に會へば天使の様によろこび愛しむかへて呉れる。

子供とお湯に行く。その子の母親がきて、自分の女湯の方へ連れてゆく。少し過ぎると、その子供がやつて來て、私にも女湯の方へ入りに行うといつてきかない。何んと云ひわけしても、子供には分らない。

子供は實に、軍人が好きだ。お前は大きくなつたら何になると、たづねると、軍人になるのだと云ふ。女の子までも一處になつて。軍人になれば人を殺したり、人を傷けたりするのだよと云ふと、

「僞だい、戰爭するんだい」。と云つて、平氣である。

畑道で、子供に會ふ。豐かでない以上、貧といふ感じのする着物をきてゐる。

大事さうに、何處かその邊の駄菓子屋で、母親にでもかつてもらつたか、アンパンを一つもつてゐる。おいしいかいと私がきいた。

ア、おいしいよと、兄の子供が私を見て云ふ。そして一口食べて又私を見る。君に上げようかと子供がいふ。お母さんにかつてもらつたんだらう自分でお上りと、私は涙ぐんで了ふ。

上げるよ。子供はパンを半ぶんして私にやるといつてきかない。それでは少しでいいよ、私はそのほんの少しをおし戴いて食べた。

子供は唄を歌ひながら行つて了ふ。今度會つたら私は何かをあの子供にやりたいと願つてゐる。いま會ふといいと思つてゐる。私のポケツトに人に與へるもののあるのはほんのわづかの間だから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

教育者の懺悔奉仕

小山敬吾

西田先生

御忙がしき先生を御煩はせ致して申譯ありませんが、どうぞ私に懺悔をさせて下さいましそして私を御導き下さいまし伏して御願申し上げます。

私が懺悔の生活を讀まして戴く迄は（此間も申し上げました通り私は小學校と日曜學校の教師をして居ります）私は口では兒童達を殺してゐる人殺しだといつも云つて居りましたが心の内では未だ〳〵「一體子供も鈍すぎる」と云ふ考——ひがみ——を消す事が出來ませんでした。子供に教へられてゐると云ふ意識も持たぬではなかつたです。が未だ〳〵子供を教へてゐると云ふ己惚れの方がずつと強かつたのです。ですから子供をほんとに禮拜することが出來ませんでした、心を貧しくして常不輕三昧に入る事、愛し切る事が出來ませんでした。

私は或る時自分の教へてゐる子供の中に盗人があると云ふ事を知つて、子供達の前で『お前さん達の中に一人でも惡い人の居るのは私が惡いからだ、だから私はお前さん達が許してくれる迄自らの罪をせめる』と申して鞭で自分の腕を泣きつゝビシ〳〵と打ちました、鞭はさゝらの様に割れ腕の皮は破れて血が流れ出ました。そんな時でさへも私は心の中にあるさもしい野心を持つてゐてほんとに子供達に詫り切る事が出來ませんでした。しかし純な子供達はみんな跪づいて心から私に侘びてくれました。今思へば恐しい事です私は子供達を陥入れたのです子供に侘びると云ひながらまるで侘びて居なかつたのですそれのみか自らの短氣のために随分虐けて來たのです私は表にピューリタンを装うた惡魔だつたので御座います。併し私が「懺悔の生活」を讀ませて戴く迄はこの表面的なピューリタンに全く己惚れてゐたので御座います。それ迄の日々の密室の祈りも結局は己惚れに箔をつけるためのごまかしに過ぎなかつたので御座います。そして己惚れを己惚れと知らずこれがほんとの物であると思つてゐたのです。

併し「懺悔の生活」はこれを根底から覆してしまひました。そして自分の穢なさがはつきり判りました。それからは子供に對するのがほんとに苦しくなりました。人殺がはつきり判りました。しかし意志の弱い私が未だ〳〵子供の前に跪づく事が出來ませんでした。跪づきたいと願ひつゝもそれが出來ないだけ私は苦しくなつてきましたそして全く行き詰つてしまひました。ですが光の御攝理は驚く可きです神様の御愛は限りなきものです。去る二日神様は先生と私を岩村田で御結び下さいました。そして大いなる御恵を下さいました。

農學校の道場で先生が合掌をしつゝ徐ろに合掌の話をされた時私の心はほんとに恥しさに一杯になりました。それから

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

先生の御室で親しく御話しをおきゝした時私の心は苦しさに満たされました。そして一刻も早くこの矛盾から逃れてほんとの生活に入りたいそれには一燈園に入れて戴くより外はないと思つてあゝして先生にお ひした次第です。その夜あの寄宿舎に泊めて戴いて床に入つてから急に熱が出て（この熱は御惠みの熱だつたので御座います）翌朝は苦しくてとてもたまりませんでした。それでも子供達が待つて居るから學校へだけは行きたいと思つてやつと這ひ出しました。そして汽車に乘つて小諸迄來ましたが降りたけれどどうしてもフラ〱してしようがなくなりました。已むを得ずやつとズル様にして家へかへりドッと床についたまゝ動けなくなりました。それから四十度近くの熱が出て體中ポツポとして苦しくて耐らなくなりました。いつもこんな熱を出したことはないのです又風邪でもなかつた様です全く御攝理の熱でした。その熱の間に自分の教へてゐる子供の顏が一人々々出てきました。すると或者が云ひました『お前はこの子を愛したか』私は『いゝえ』と答へました、又『お前はこの子を教へたか』『いゝえ』『それならば叱つたのか』『ハイこの子をもあの子をも打ちました』と答へた時とうとう打伏してしまひました。しばらくして祈りました、今迄にない敬虔な心持で。……しばらく祈つて居ると『悔い改めよ、さらば汝の罪は許されん』といふお聲がきこえました、又十字架の吾主が浮んで參りました。

あゝこんな大きな御惠みの道がそなへられて居たのでしたあゝもうすべてを吾主にお任せして唯今から悔い改めようと思つた時急に心が輕くなりました。すると又前夜の先生の合掌と合掌のお話しが浮び出てきました。そうだ、懺悔と合掌……一燈園生活このまゝ懺悔の生活に變へて行かう。明日は行つて子供達にあやまらう、私は子供の恥を取るべき身分の者なのだから、そして子供達にゆるしてもらはうと思つた時急に今迄痛んだ頭は治つてしまひました。しばらくすると四十度許りの熱が奇蹟の樣に引けてしまひました。御攝理の熱であつたのです。

翌朝學校へ來ました、教室へ這入ると子供達は笑顏を以て迎へてくれました。

『私は今皆さんにあやまらねばならぬ事がある、みんなの內に今迄に私に打たれた者は手をあけて下さい』と申しましたら子供達は『おらあ忘れてしまつた』と申して一人も手をあげませんでした。あゝ子供達はあんなひどい目に會つてもうすつかり忘れてゐてくれたのであります。私は感謝しつゝ『皆さんは忘れてゐて下さるが私はどうしても忘れることが出來ない、この人の顏を見てもあの人の顏を見てもそこにみんな私の罪が書いてあります、こゝにある鞭も……あゝこんなものを持つてゐたからいけないのです、これを折つてしまひませう』と云つて何本かの鞭をみんな折つてしまひました、そして『どうか私が今迄短氣でみんなをいぢめたのを許して下さい。私はこれから改めますから、こ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れからけつして皆を叱りませんから、どうか許して下さい」とあやまりました。そして「許して下さる方は手をあげて下さい」と云ふと組中みんな手をあげてくれました私はそれを見て全く感激してしまひました。そして思はず床の上に手をついて「ありがたう……」と頭を床につけました。涙がポタ〳〵と落ちました。

あゝ先生、私は初めて子供をほんとに禮拜する事が出來たのです、エゴイストの私が子供を禮拜する事が出來たのです。あゝうれしい。私が鞭をさゝらの様にして腕の皮を破いて血を流して謝つたのも結局は子供達をせめたに外ならないので御座いました。あゝ今こそほんとに子供達に謝り得ました。今こそほんとに子供達と抱き合ふ事が出來ました。『ありがたうありがたうこれからどうぞ敎へて下さい可愛がつて下さい』と又頭を下げました。

その日の授業はほんとによく出來ました、今迄一日もあゝ今日はよく出來たと云ふ授業はした事はないのに……しようと思つてゐても……今日こそ出來ました。

今迄鈍なために愛し得なかたの劣等生をもほんとに愛する事が出來る様になりました。所が不思議な事にはいつも出來ない劣等生が今日は何をさせてもよく出來ました。ほんとに驚いてしまひました。授業が終つて後子供達に『今迄はみんなに敎室を掃除してもらつたがこれからは私がみんなやるから皆はしなくともよい。何故つて今迄は間違つてゐたほんとは先生がみんなに敎はつてゐるのだ、愛されてゐるのだたから敎はつてゐるものが敎へて下さる人のためにつくすは當前の事です。今日もみんなは私にお地藏様のやうにすべてを許して千手觀音様の様にすべての人を愛するといふ事を手本を示して敎へて下さいましたと云つて雜巾を取つて掃除を初ると子供達もあつけに取れてゐたがやがてやり初めましたから『いゝんだよ、さあおかへりなさい』と繰返し〳〵云つたがどうしても歸りません。とうとうしまひ迄手傳つて敎室の掃除を終りました。

敎室が終つて私は兒童の便所と職員の便所を掃除してさつそく學校をとび出して、學校から二里ばかり離れてゐる私の傳道する或る五ケ年病つてゐる老人の家へ行つて「今日は托鉢をさせて戴きます」と云つてさつそく庭先から臺所便所迄すつかり掃除しました。お爺さんもあつけにとられてゐましたが「すみません〳〵もつたいない〳〵」と申して居りました、今日はいつもの拙い話よりもずつときゝ目があつた様です。そこで是非にととめられて夕食をお馳走になりました。いつもならば食べられない様なものですが大變旨しく戴きました。それからそこを辭してやはり同村の病人の靑年を見舞つて感謝しつゝ新しい生活の第一日を終りました。就眠の祈はたゞ感謝でした。

今日も病人の家を一軒托鉢させて戴き又便所を五つ掃除させて戴きました。今迄は敎壇へ立つのが苦しかつたのですが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

今では何よりうれしくなりました。もう私はかうした生き方をしないでは居られなくなりました。これが懺悔の生活といふものでせうか私は一燈園へ行かなければ其れは出來切れないだらうと思ひます此れが懺悔の生活ならばあまりにやさし過ぎる樣な氣が致します。

未ださつぱり判りません。どうぞ御批判なすつて下さいまし。私は兎角熱情に驅られて一本調子になり勝なのです。間違つた愛し方をしてほんとに愛してゐたと己惚れてゐた樣な私ですからどうぞ御冷靜な御批判をおきかせ下さいまし。兄及先生がよしと云はれる迄直し度いと思ひます。

どうぞこの單純な間違い易い私をお導き下さいまし伏して御願ひ申し上げます。

御忙しい先生にこんな長い手紙をお讀ませして申譯ありません。もつと短く書く樣に注意して見たのですがつい長くなつてしまひました。どうぞ〳〵お許し下さいませ。

選ばれたる先生に兄の祝福長しへにあります樣に。

『新しき生活』

渡邊破竹

突然御多忙の處へ自分かつての手紙差上まして失禮致します何卒御許し下さいませ。私は去る十一日慶應義塾にての御講演を親しく拜聽させて頂きまして、たとへがたなきよろこびにみち感謝いたして居りますもので御座います。拙き筆もて感じましたまゝを書きました何卒御判じよみ下さいませ御願ひ申上ます。

實は私は當年三十七才で御座いまして四人の男子と二人の娘の繼母で御座います四年前に夫を三年前に長男を失ひました。二人は他に嫁ぎ只今は四人の母として其日〳〵の生計には何不自由なくさせて頂いて居ります。國許には（伊豫）二人の實子が居ります。私は當方の子供の生母の弟の妻で御座いました。はやく夫に死別いたしまして苦勞致して居りましたのを當家の姉の死亡後私の子供をも世話なし下さるはずにて當家へ參りました（七年前）が、其の時は當家の子供も小さい等の關係上私の方のは國許に父母及び兄に御願ひいたして置きました。只今もやはり兄の情にて上の娘は女學校に末の子は中學校に勉强させて頂いて居ります。それで朝晩兄には感謝し、かつ二人の子供は佛樣に何卒お守り下さいませと御祈りいたし、子供にも『淋しく思ふ折には母さんが祈つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

居て下さる、いつも佛様がお守り下すつてだと思ひ有り難く思へ』と申聞けて居ります。

當家の子供も只今では上が二十四才になりまして帝大に、次が二十一才にて慶應大學に、次が十七才と十六才にて中學に居ります。私は性來あまり健康でありませんでしたが近來は誠に病身がちで御座いましてよく床につき皆々に心配して頂きます。今月初めで御座いましたが御著の懺悔の生活を床の中にて拜讀させて頂きました。實際の處私は今の世の中にかやうな立派なる清き御生活をあそばしての御方のおいでになります事を存じませんで御座いました。子供四人は日曜日には教會にまゐらせて頂き日々聖書を讀みます。私はよく「出家と其の弟子」を讀みまして心になやみある時の唯一の慰めと致して居りました。その私が御著を拜讀させて頂きました時の心のよろこび闇夜の光りを見出しましたように存じました。今までは家庭に親戚間に何かありました時には心からかなしみ身の不幸をなげきました又人をうらみもしました。それが人の罪惡をも御自身と思し召すとの御事、實に今までの私の考へかたの間ちがいでありましたのに心づきました、穴あらば入り度思ひました、おかげ様にてさとりました。

親鸞上人の御言葉を聖書として有難く思ひました私は現在そのまゝ御實行遊ばしての御話を力強く勿體なく存じました。それでその日からありがたき事と心得私もそのつもりで働かせて頂かねばならぬと決心いたしましたものゝ、おはづかしき事ながらいつの間にやら先の私にかへります。それで殘念に存じました折から二番目の子供が聖書を讀み乍ら實行出來ぬことと又教會の言行一致せぬ點のあることにあきたらず思ひ心中苦しみ居りますのを見出しましたからこれはよきおつれになりさうと存じまして一さい打ちあけ話しまして御著の一讀を乞ひました。處が彼も非常によろこびまして、聖書を生かして御働きになつて御ゐでになる、よろしい私も母さんと二人で家庭にゐて今から生れかはりませう、この家を第一に樂園と致しませう、させて頂きませうとかたき決心のほどを見せました。私はうれしくて／＼たまりません二人で感謝致しました。それは十日夜の事で御座います、私は自分自身の性格が「もち」に足を入れましたやうなのみ殘念と存じまして『破竹』と、子供は身長五尺八寸近くもあり立派に育つて居りますから『天惠』と改名致しました。十一日の朝箸を取ります前に子供達にその由を申し今までの罪を謝しました。定めし脫線のみ致しませうが何卒御助け下さいませ、其の意味で今度の名前をおしのび下さいませと御願ひしました。十時ごろ東京から電話がかゝりました、それは天惠からで御座いまして、今日學校で西田さんの御話がある母さん御出でなさいませんかとの事です。初めは耳をうたがひ聞きなほしました。やはりその通りです夢ではないかと悅びまして一時に講堂へ參りました。御著より光の生活にと覺悟致しました二人がしかもその日に御口からお話をうかゞひまし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た。中桐様の御話によればやはり當日朝御歸京あそばしましたとのこと、かく三つも揃ひましたのを偶然と申しますればそれまでゞ御座いませうが私共はなか〳〵さうは思はれません、御ひき合せのやうに思ひましたか強く感じました有りがたく〳〵拜聽させていたゞきました。天惠にあとに殘りましてお食事の時親しく御話をうかゞはせて頂きなさいと申ましたら、私共は最早や實行の時です御兄様は今夜教會でせうから二人の弟が淋しがつて居ませう母さんの御ともして歸りますと申して呉れました。うれしく思ひました。

●御存じで御座いませうが十二日は池上本門寺の御會式で大森地方は大變な人出で御座います宅へも朝早やくから宿り客があります筈です。學校から歸りました私は何とも申しやうなき力をいたゞき女中相手夜おそくまで明日の馳走の仕度をいたしました。天惠も他の小供も手傳つて下さいました。翌日の十二日朝はやくから仕度にかゝりました、終日働き通しに致しまして夜ねむりましたのは十三日の午前一時過ぎで御座いました。十三日には甲府の方へ學校から遠足に參ります子供がありますので三時過ぎに床を出ました。私は前申上ました通りの至つて弱いからだで御座いまして、睡眠不足の日には目まひが致しましていかに辛抱致しましても仕事が出來ず床につきますのが常で御座いました。それに不思議にも朝から晩まで掃除やら何やら致し無事に宿り客も送りました。とても私の力とは思はれませんうれしく〳〵感謝致しました。

それに不思議なことには先日まではあゝ私の屆かぬつみだとはつねには思ひながら何事かありました時には氣がかはりますのに、昨日今日は鏡にうつりし自分の姿のやうな氣が致しまして心から自分の罪だと萬人に氣の毒に存じ心中あやまつて居ります。實は一人登校を好みませぬ子供がありました、たゞ病氣とてもありませぬが休校させて居りますのがあります。日夜その子の事が苦勞になります兄達も非常に心配致します。その子が特に私へむづかしう御座いますので、いかゞ致しましたらよろしきやと心配致します。實際の處實子の事はさほど氣にかゝりませぬがその子の事は忘れる事はありませぬ。自分のあしきとは思ひながらも何とも致しやうなく腫物に障る思ひ致しました。それを今朝も私が一所懸命にふき掃除致しますとそこに立ちながらよけても下さいません。いつもで御座いましたら、口にこそ出しませぬ、その時相當に不愉快に感じましたものです。それが今朝はあゝこれは、この人の一二年の行ひは自分自身の姿が寫つて居るのだあゝ氣の毒だ申譯ない、親の因果がこの子に報いと申しまする言葉をきゝますがそれにちがひない私は病身にまかせ仕事を休みし時もあり床につきがちで暮しましたその見ぐるしき姿が今この人のかゞみに寫つて居るのだ何とも申譯ない御ゆるし下さいと手をつきてあやまり度思ひました。私は未だ修養が足りませぬ心にあやまりながら手まではつきませんでした。私が生れかはりて働かせて頂くそれよりほかに道はないと一し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ほかたく覺悟致しました。あまりのうれしさについ御邪魔になりますとは存じながら筆とりました。御許し下さいませつい長文になりました。

何事も存じませぬ者〻ねに脱線致しがちで御座いませうが何卒よろしく御願ひいたします。

御健康をいのりまして筆とめます。

何處へ

三石勝五郎

窓ふきやめて
いつのまにやら
草むしり
ろくにやすます
働いて
短册たのめば

心の蟲

「法悦生自十字架」
と、書いて天香さんは何處へ
行きなされた
ぽつかりと
言つて了へは
それきりだ――
言はずにゐろと
おつしやつた――
心の蟲がひもじいか
腹の中から言ひたがる

天香氏一行を迎へて

伊藤猛

十月十四日の正午、私は一葉の端書を手にしました。それは、天香さんが、高崎廻り前橋行の汽車中で認められたもので、十七日中に五人の同行と一緒に會社へ行くとの。御知らせでありました。

此頃、私が奉仕させて頂いて居ます、日本麻糸會社の鹿沼工場へ、一度托鉢して頂きたいと、かねて、御願ひはしてありましたもの〻、御多忙の御身ゆゑ、そう急には御越しは願へまいと思つてゐました。此御端書を拜見して、私は、うれし、有難しと、雀躍しつ〻、其日の來るのを俟ちました。其朝、天香さん宛の手紙が數通參り、東京からの來訪者もあり氏の御來社の近きを感じましたが、栃木からの電話で、一日延びた事を知りました。十七日正午福田さんが、京都一燈園から、遥々、天香さんに逢ひに見へました。長途の旅の御疲れもさこそと思ひ、私に惠まれて居るお室に御案内致しましたが、何か仕事をとの强ひての御話ゆゑ、炊事場の御手傳を願ひました。夕刻事務所かち歸つて、寄宿の學校に御話をしに行かうとする折柄、一人の婦人が尋ねて見えました。澁谷さんが、東京から見えたのでした。翌十八日、御兩人とも、未明に起きて、庭園の掃除にいそしみ、續いて炊事場其他へ

御働き下さいました。正午過ぎ天香さん、勝淳さん、松下さん、鈴木さん、加藤さんが、打つれて見えました。御休みになる暇もなく、男の方は、屑小屋の整理や、便所掃除に、女の方は、貯や、布團の修理などに、御手傳下いました。其翌日、松下さんは栃木へお歸りになり、殘の方は、其日も、其翌日も引續き、工場内の直接生産の仕事や、屑物の整理、或は、社宅の各戸に托鉢して其便所を清めさして貰ひ、或は工女さんの下駄を揃へなどして、飽くまで、謙遜に、眞劍に、下座を行じて被下いました。天香さんは、御疲れも御厭ひなく、毎夜、社員さんや、工手さんや、社宅の婦人方へも、御講話被下いました。

○

此度の托鉢の反響如何!。不二の行者の托鉢は光任せである。無相遊歩托鉢者は、光のまに〳〵奉仕させて頂くので、其効果とか、反響とか云ふやうな功利的な考は毛頭持つて居られぬ筈である。事實、天國に遊んだやうな好い氣持で、作務して居られるらしい。之が會社の人々にどう響いたか?。緣に應じて、種々様々に響いたであらう!。今の私は、こんな事を考へたくないし、又一々問ひ質しても見ないので、どんな反響が起つたか、又起りつゝあるかを語る多くの材料を持たぬ。かくれたるを見そなはす神は、よきやうに計らひ玉ふであらう。何となく心が落ち付かぬが、只一つ丈け茲に述べさして頂きます。此會社に、便所掃除其他の雜役に従事さるゝ男と女の(各一名)方が居られます。何れも、着實な人で、かけひなたなく働いて被下いますので、私共は心から感謝して居ます。。併し世間が尤卑しとさるゝ便所掃除を仕事とする二人は、常に周圍の人から卑下さるゝやうな氣がして其心も暗く、日頃の行動も遠慮がちでした。此度立派な方々が、喜び勇んで、便所掃除をさるゝのを目撃して、便所掃除も貴い事だ、仕事に貴賤の差別はないと悟つて、積年の心の悩みが、さつと晴れたらしい。それかあらぬか、箒持つ手にも力あり、運ぶ足にも元氣が増したやうに見受けられる。殊に其一人は、寄る邊なき文盲の一老女。金光様を信心して、此荒き浮世を渡る可憐の寡婦。一燈園の人が代つて被下れて特に一日の暇を貰ひ、町の金光教會に御參りをさして頂きました。天香さんの心からのお祈りで、此人はほんとうの信心に目ざめて、行先き幸福な生涯が送れるだらうと、私は喜んで居ます。

此度の托鉢で尤多くの御かけを頂いたのは、恐らく、私だらうと、喜んで感謝して居ます。奉仕の生活を祈りつゝある身にも不拘、常に怠りがちで、知らず〳〵不品德をする事のみ多う御座います。下座を行ずる事を心掛けて居ながら、つい、皆様から大事にされて高座に上りがちです。當工場に參りましても、自ら一燈園の名を談るには、我身が餘りに不純不信なので、今日まで、背て、一燈園同人を名乘り得ませなんだ。此度の托鉢で、既に、一燈園が此工場に紹介されまし

た。私も其祈りで來てる事が、廣く知れ渡りました。益責任の重きを感じます。併皆さんの托鉢で、不二の行者の行動はどんなものか、明かに示されました。もはや、光を消しがちの行動が、一燈園を誤解せしむる恐れはありますまい。私の境遇のまに〳〵安心して奉仕さて頂く事が出來ます。此度の托鉢で日頃の私の不品德を償ひ被下され、又此後、皆さんの埋め置かれた德を、惠まれる事は勿體ない事です。感謝致します。

一時奉仕は、結縁の爲めの祈りの形式と承知して居ます。此度のお越しで、確かに、廣く結縁が出來ました。獨り會社の人ばかりでなく、波紋は鹿沼町にも及んで居るやに見受けられます。工場托鉢には、更らに別の祈りの形式が要るやうに私には思はれます。夫れは、長期の奉仕です。天香さんは信心して貰へば、引續いてよせて貰ふ、更に眞に信心して貰へば全體を引受けると、何かに述べて居られたやうに記憶して居ます。我社内の人々が、更らに信心して被下されて、此事業を、單なる營利の機關視せず、従業員の魂の開發に盡力され、事業即愛の道場となるやうに祈つて止みません。そして、同人が引續いて奉仕して被下る事を懇禱して居ます。

工場の布教に見えた坊さんが、貰つた御布施で、歸りに一杯飲む相談したり、雇主の注文で說教したりする教役者もあるやに聞いて居ます。かくて、法の威力も消へ、切角の御說教も、義太夫や講演と、選ぶ所がないやうになつて參ります。私は、永年之を厭き足らず思つて居ました。天香さんが、當社にお見えになり、雇主、被傭者、共何方からも賴まれて來たのでない事を明瞭にされた事を、うれしく思ひます。金や權勢で、托鉢者は呼べぬ眞の信心のみ引寄せる力ある事を、世の人に理解して頂きたい。そして、それは勞資何れでもなく、凡ての人の魂の奥底から、眠れる光を呼び醒すために！。世の多くの雇主は、托鉢者を見て、感心だ、有難う、職工さん達も、之を見習ふて、眞面目にお働きなさい、勞働は神聖だと云ふがさて　自身の事は棚に束ねて顧みないのが常である。こんな所に、深い御縁の結ばれよう道理がない。はや、我奉仕する工場にも、信心の種は播かれた、之に培ふのが、私共の務でありましよう。いや、お導きにより益々精進さして頂きます。合掌。(一〇、一一、三)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

返照録

口佐々木一兄（廣島縣高田郡北村）

草深き、片田舎に、罪に惱む一青年――一面識もないこの私が慕はしさの餘り、書き送りませう、この手紙、どうぞお讀み下さいまし。

先生の御著、懺悔の生活、讀まして戴きますうち、止どなく出る涙を、どうすることも出來ませんでした。私の行くべき道をはつきりと、照し出された嬉しさ、今更ながら、憎惡と、奪略と、安逸とに生きて居る私の姿のあさましさ、あゝ私は死ななければなりませぬ。

無一物中無盡藏、何と云ふ尊い御言葉でせう貧しい私でありますけれども、働いて食べて居る私でありますけれども、私はまだ〳〵多くのものを持つて居ます、それよりも、私はまだ〳〵多くのものを、持たうとします、財産を、名譽を、地位を、安逸を、何と云ふたまらない悲しい私なんでせう。少しのものを持つて居るだけ、私は少しもほんとうのものを持つて居ない。少しのものをでも持たうとするだけ、私はほんとうのものを、捨てゝ居るのでありました。

光に照されて、私の姿のみじめな、あさましさがまともにさらけ出されて、私はたまらなく悲しう御座います。

光に照されて、私の行くべき道がはつきりと、向ふにただ一すじとして見えます、萬人の行くべき道として。

先生　けれども、私は迷つて居ます、どうしたら好いので御座いませう。あゝ私は餘りに弱い私を、恨めしう思ひます、何故、照し出された、私の行くべき道に私は行き得ないのでせう。

私は父母、祖父母、兄弟の、愛の羈に縛られて居ます。

棄恩入無爲は始終私の胸に響きますけれども、あゝ私は私の弱さを、餘りの弱さをつく〴〵恨みます。

然し、まだ私の行くべき方に行かうとするのを、止めて居る力は、私の心のうちにあるのを、否定し得ない悲しさに私は泣かずには居られません。何物かを持たうとする心、あゝ弱い〳〵私よ。

先生　私は一たいどうしたら宜いので御座いませう、お敎へ下さいませ、お導き下さいませ、私は苦しみ、惱み、迷つて居ます。

今の境遇のまゝ、私は私の行くべき道に行くのがより好い道ではあるまいかと思ひますけれど、弱い私には、それはなに更出來ないだらうと思はれます。

境遇は私を支配して、私と云ふものは殆どない位に考へられるのですもの。

先生　どうぞ憐んで下さい。お導き下さい。私は私の弱さをどうかして強くせうと思つて居ます。

私は、去年の四月、師範學校を出て、この小學校に、奉職して居るもので御座います家は貧しいけれど父母も祖父母も、健全で弟妹は多くあります、私は長男に生れました家は百姓をして居ます、私も三年程百姓をしました、今では休暇などには歸つて、草刈をしたり手傳したりします、からだは、至極健康であります。妻も子もありません。眞宗を信じて居ます。書物を讀むのを樂しみにして居ますが深く心の底をさぐると、とても愛らしい兒童に、先生と云はれ、教壇に立つて、修身のお話など出來さうな私ではありません。そして、土地の百姓の方の働きと、私の働きとを比べ百姓の所得と、私の俸給とを比べた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

時、私はとても平氣で居られません而も、給料は、上るやうに上るやうにと望んで居ますかうした矛盾に私は苦しんで居るので御座います。心は何時も平和を失ひ、からだは何時も、他人のものを奪つて生きて居る！

先生　學校を卒業した當分は社會改造を思ひ、富豪や、洋服を着た人々を、呪つた私でありました。今でも、永久に私はこの考へを—呪ふと云へば何だか言葉が悪いですけれど—棄てますまい。けれども、呪はるべきものは、その最初の一人は、私であつた、と氣がついた時、どんなに悶え苦んだかお察し下さい。

苦しみ悩み、迷ひ、そして愈々、たどりついて、懺悔の生活の不二の光明、を認めつゝも、その道に進まんとしつゝも、この衣物一枚脱ぎ得ざる私の今がどんなに、さきに倍した、苦しみ悩み、迷ひを、續けて居るものであるかをお察し下さい。

先生がお慕はしうてなりません。

京都が戀しくてなりません。

眞裸になつて、働く、他人の爲にいや佛のために働く身になりたくてなりません。

先生　お忙しいなかを、長たらしい下らないことを、お目にかけまして誠に濟みません。こんなことを、お讀みになるよりは、働かれた方がどれだけ好いかわからないから一そ止めやうかと思いましたけれども。

先生　一人の人間が迷つて居ます、どうぞお導き下さいませ。慕はしさの餘り、願はしさの餘り、こんなことを書きました。（天香氏宛）

□清水精一兄（大阪市天王寺村二二八、同朋園）先生過般はつまらぬものですが私の感想を雑誌「光」に書かして貰ふことを御約束して置きました。早速に原稿を御送りしたいと思ひ、幾度も／＼机に向ひペンを手にしました。書き終り讀み直して見れば、餘りに眞實のものとは離れて居るのには驚きます。これではいかぬとペンを抛げる又机に向ひ書き直して讀み下せば矢張本當のものではない。先生私はどうしても書けませぬ。この空虚な文字の綴りをどうして人様にあつかましく見せることが出來ませう。今の私は書き得ぬ私です。如何とも仕方がない。今の私は沈默を守るより外ない私です。獅子吼は出來ない。無理に强ひて書くことは何となく許されぬ事の様に思はれます。どうか御免し下さい。書かして頂くことを許された時が來れば喜んで書かして貰ひます。それ迄はどうか此儘で居らればならぬ私を御許し下さい。書く、言ふ、ことは本當のものは書けない言へない、様な氣持がしてなりませぬ。「說似一物卽不中」と言ふ言葉が思ひ出されます。弱い／＼私です。どうか此弱い私を御導き下さい、御詫まで、合掌私達の集り心同朋園といふことにしました（中桐氏宛）

●編輯者より

○本號表紙の題字は解脫上人の眞筆で今津洪嶽師御所藏よりの影寫です

大正十年十一月廿五日印刷
大正十年十一月廿五日發行　（代金二十錢）

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎

東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者　渡邊市太郎

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

○振替口座東京五七六七一番（牛込原町三ノ五三、中桐確太郎）
○郵便爲替にて御送金の方は牛込若松町局」指定に願ひます

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

高屋光家兄追憶録

一燈園の同人で道に殉ぜられた兄姉は、既に今日までに數少くないのですが、大正九年九月二十四日永眠された高屋光家兄の追憶號を、その道友八代義定兄のおいのりで、祥月にあたる九月に出さして貰ふ筈でしたが、何かと都合がありまして、延び〳〵になつて居りましたところ、漸くその運びになりましたことを悦ばしく存じます。

生前、兄とは編者も前後三回――たしか大正五年の春と六年の夏でしたらう――鹿ケ谷の一燈園で幾日かを一所に暮さして貰うたことがあります。前の時には病氣の御樣子など少しも見えず、日々托鉢にいそしんで居られ、夜分看經のあとなど、初對面の編者の無躾なお尋ねにも何かくさず「入信の經路」を告白された言葉のはし〳〵など、今も編者には力强く印象されてあります。お別れする時、兄は同じ東北人といふところから大層名殘を惜しまれ、天香師もさう申しますからとて、あの南禪寺を出抜けた所にあるインクラインの電車停留場まで、固辭するのをおきゝにならずに編者の風呂敷包をお持ち下さつた。電車の窓から會釋すれば、黑のひつぱり姿の兄は合掌してニコツとされた。その時、編者は何となく「さびしい尊さ」といふ感じを受けたことは、打ち消しやうもありません。今尙まのあたりにちらつくやうな氣持さへいたします。

二度目の折には、病臥して居られました。禪堂の入口の左手にある二疊敷の部屋に、白蒲團につゝまつて、肉こそ落ちませんけれど勝れぬげな面色で、目をつぶつて正しい仰臥の姿に兄を見出だした時は、可なり驚かされました。病症は肋膜とのことでした。兄は靈癒を信ぜられ、天香師とそれについて種々問答されたりして居ました。それでも道友池田醫學士の懇ろなるお見舞は心嬉しく受けられ、又當時在園なすつた小此木長老の何くれとない御看護には感泣してゐられました。供養される乳や卵など極度の虔しやかでおし頂かれる樣は、編者の眼を幾度かくもらせたことでせう。

編者は東上の後、兄の病やうやく怠り郷里に歸られた由、人づてにお聞きして私かに祝福して居たのでしたが、今はその人を御追憶申さねばならぬハメに立至りましたことを悲しみます。されど『神は常に働き給ふ。』願くば兄が靈、永へに我等が上を護らせ給へ。（十、十一、十三、　松下生）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

高屋光家君に就ての追憶

山村暮鳥

八代義定様

お葉書によつて、すぐ机には向つてみましたが高屋君のことはなか／＼複雜で、ちよつとした感想としてはとても何にも申上げかねます。それは正直に言へば、それが私一個としての見方で、故人に迷惑であるやうなことも無いとは限りません。――しかし折角の機會でありますから、お仰せにしたがつて見ませう。

いつ頃から高屋君が自分と知るやうになつたかよく覺えてゐませんが、大正四年の初夏の頃です。養父が大患でわたし達夫婦は子どもまでつれて全家でそこへでかけました。その留守中、同君に泊つてもらてゐたことなどから考へると、ずつと前、大正三年の秋頃からだつたかも知れません。あとで自分の教會の信者のひとりになりましたがその時分はまだ、洗禮はうけてゐなかつたでせう。

どういふ動機で自分に近づくやうになつたか。それは解りません。その頃、自分のまはりには若い文學浪人がたくさん群がつてゐました。君もその一人でした。しかし他の人々とちがつて君には眞摯なところがあり、そして宗教的でした。

君は郷里でそれまで小學校教員をやつてゐたさうです。おなじ學校の女教員との間にへんな噂が立てられて、ふたりとも停めさせられた、女はわたしのゐた町にきて再び教員となりました。

私はその婦人も知つてゐます。放蕩な夫は家にもよりつかず、一人の子どもがあり、氣の毒な境遇でした。同情が君をして彼女を戀はしめるやうになつたのかも知れません。私は家によんで二人を會はせたこともあります。――そんなことからだんだん、君は私にちかづくやうになつたのかも知れません。

君は愛に餓えてゐたのです。實家はすこしも君の心をやすめなぐさめる所ではなかつたやうです。長兄がすでに相續してゐる家では、君はどつちかと言へば餘計者だつたのでせう。

その上、君は生活に脅かされてゐました。

私は大正四年の夏前、君に或るひとを紹介し、その人の商品である「夏期休中日誌」を賣らせたことがあります。君はそんなことまでも忍んでしました。さうして學校から學校を行商人としてへめぐることはどんなに辛かつたでせう。年若い、そして人一倍の野心に燃えてゐるその頃の君としては。――それでは下宿代も拂へず、その賣上げまで喰込んで、みんな私に尻を拭いてもらはねばならなかつたのです。

君は頻りに立教大學の神學部へはいりたがつてゐたが、自分はそれに反對しました。自分にはもう自分を鑑としてそんなところからでてくる所謂傳道師に愛憎がつきてゐたからで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

す。それに君にはすぐ入學する資格もありませんでした。
　すると突然君がみえなくなつた。多分、鄕里にでもかへつてゐることと思つてゐたら、半年程たつて君の住所がわかりました。大浦村の某寺にゐたのです。その飲食に不自由なく而も生きながら死んでゐる僧侶生活を君は泣いて訴へてきました。自分はとるものもとりあへず行つてみて、なるほどと思ひました。君はそこで十ばかりの小僧に御經をおしへられてゐました。住職のないお寺ではそれでゐて君が主人格でした。そこにはいろ〳〵逸話があります。葬式のあつた時、君はドラの打ちやうを知らないで――もちろん經もまだ讀めず――口でもぐもぐ言ひながら、めちやくちやにドラをがらんがらん叩いたさうです。すると會葬者の一人が「やア新式だなあ」つて噴飯したやうなこともありました。また、塔婆をたのまれたが書き方がわからないので、あした來いと言つて追ひかへしておいて、その晩、ほかの墓のをもつてきてそれとおなじやうにまねてかいて渡したとか。木魚をぽくぽくやりながら、何も言はないでゐてはまぬけておるのでバイブルを誦してゐたとか……
　其寺にはいつたのも、あとで東洋大學とかに入れてやるといふ約束からであつたさうです。が前述のやうなわけで、たうとう堪へ切れずに飛びだしたのです。
　そして再び小學校の雇教員になつたのです。その前からあなたとは私をとほして知つてをられたらうが、その小學校があなたのお家に近かつた關係から、以後一そう親しくなられ、そしてたうとうあなたによつて西田氏のお世話になるやうにまでなつたのです。
　その頃の高屋君は　自分にあまり面白くない青年でした。君は正直でした、まじめでした。けれど君は多分に損な風貌をもつてゐました。誰にも君は好かれてゐないやうでした。むつつりとした。齒切れの惡い、それでゐて何處かひとを馬鹿にしたやうなところがありました。生活の不如意、悶々の情、いまに見ろ！と言つたやうなものが、さう自分達に取られたのかも知れません。
　京都からは二三どたよりがありました。いつもハガキで、神神神とか光光光とかいふ文字を一めんにかいては來ましたその他にはなんにもかいてありませんでした。それをみると自分はすぐにヤコブ・ベーメのジュウヰレエションを思ひだしました。然し君がそれほどに大酔歡喜してゐるかははなはだ疑問でした。
　大正七年の一月、自分は平町より水戸へと轉じ、その二月の寒いある朝、おもひがけない高屋君の訪問をうけました。
　紺木綿の道中着にたび鞄、手首には珠數をかけてゐました。自分はなみだをおとしたほどうれしかつた。子どもに玩具を買つてくるのをわすれないほど、君はやさしくなつてゐました。一ばん泊つていろ〳〵語りました。
　ことごとに合掌するのが妙にあはれで氣掛りでした、組合

のたかれの消息をきいては。食膳にむかつては。旅費のたしにでもしてくれるやうにとだしたお錢の包みをうけては。
その時の君の歸鄕は、そこで宗教的奉仕をするためでした。けれどそれはすつかり失敗に終りました。いつの時代でも、愛するものは憎まれるのです。それが强ければ强いほど酷いのです。君もそれでした。
で、再び東北をめぐつて、なつかしい西田氏のもとをさしたのです。それらはみな、君の手紙によつて自分は知りました。
それからすぐ君は病氣に犯されたのでせう。その秋、自分が大咯血してまだ寢たり起きたりしてゐる頃、君はまた自分の家をたづねてきました。鄕里にかへつてゆつくり靜養した方がよからうと言はれてきたと君はいつてゐました。汽車を下りてから雨にふられて、づぶぬれになつたといふのが惡かつたのか。その夜、君は旅館で發熱したのです。肋膜が惡いと言つてゐました。私はすぐにかけつけて、懇意な醫師をつれてゆき、そこで診て貰ひました。もしものためにとて藥などまでもたせ、汽車も特に二等にして翌朝早くその鄕里にむけて立たせました。あゝ、それが相見る最後でした。
それから死ぬまで一どのたよりも受けず、自分もその鄕里の所書きをしらないので、時々おもひだしては妻とうわさするやうなこともありましたが、つひそれなりに――そして悲しいかなしい通知をその家兄からうけたのでした。
君が臨終のことはあなたがよく御存じのことと思ひます。
一燈園へ行つてからの高屋君は、たしかに光明をその靈魂にうけたでせう。君は寂しくみえました、けれどもその寂しさの中には穩かな靜かなものがありました。世に生きて、愛に餓え、いつも生活に脅かされ、物質的にはそれこそ一羽の軒雀ほどにもめぐまれなかつたであらうが、それだけまた永遠のものに就ては獲るところが多かつたであらうとおもはれます。

（茨城縣イソハマにて）

歸省後の高屋兄

齋藤慶信

諸先生の御同情に依りまして、法兄至然氏の追悼號を御出版下さいます由心から有難く感謝致しました。
私に對して歸省後の高屋兄の感想をとのことでありますが固より無才無學な私如きが兄の深き信仰とその最後まで全力をそゝがれた奉仕の生活の狀態を申し上げる事は出來ませんが光によつて少しでも兄の人格の尊さを現はす事が出來ます樣にと祈る次第です。
私が兄と相知る樣になりましたのは兄の歸省當時、丁度私が兄の菩提寺である同村の淨圓寺に彫刻をして居りました時

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

で御座います。

兄は病氣がよくなるに隨つてその寺へ托鉢をなさいましたこの寺の住職は、一燈園生活を最初に理解されたお方でありました始めは通つて來られましたが、後で私がアトリエにして居た。家を空然庵と名づけられて私と共に寢起きなさる事になりました。

兄は身體の許す限り、方丈さんの代理に法要に出かけられたり、寄附金を受納されたり、又養蠶期には手傳ひに行かれたり、奉仕の生活を一時も休められない樣でありました。そしてその行はれる事、語られる事は一々人々を感動させました。私も兄の感化によつて、新生活を開く事が出事たので御座います。併し兄を深く理解した人は少なかつたのであります。然し兄は凡てをお光におまかせして居られましたから凡てに對して懺悔をされました。(他人の罪も自己に負つて)惱める人々とは共に苦しみ、悲しき人や淋しき者と一緒に泣かれ、虐げられた人には心から同情され、そして大悲照鑑の下に、生死を越えた徹底的の安着の生活に導く事につとめられました。兄は又私に次の樣な事を語られたことがありました。智慧は藝術を司り、愛は宗教を司る。併し眞の藝術は愛を伴ひ、所謂藝術の領域を越え、眞の宗教は絶大の智慧を伴ひ、所謂宗教の欲域を超越し來る。釋迦やキリストの如きそれである。宗教家は藝術的なものを要するが、然もそれ以上の要素を要する。最も眞實なる人は藝術だけに止る事は出來ない。其奥底に露を飮んで咲いて居る實行の花を極めねばならないと申して居りました。

私が上京致します時、兄は凡てを御佛樣にお任せして、隣人を愛し、廣く法界の爲めに、惱める人を慰める事に努力致しませう。そしてお互に思ふ時には、唱名念佛して、永久に生かさして頂ける樣に精進致しませう、と。是が兄の最後の言葉であつたのでした。兄は身體の弱い人でありましたのに、そして働くと云ふ事は兄の身體に惡い事が分つて居たにもかゝはらず、自分の强い信仰によつて、自分の身體の事もかまはず、托鉢されたのでありました。自分を生かす事は人の爲にどこまでも盡す事であると云ふ兄の信仰は、肉體的生の短さなどは少しも心にかゝらなかつたものと考へられるのであります。兄は常に兄の理想として、涅槃庵と云ふものを立てゝ廣く法界の爲につくし度いと云ふ事を云つて居られました。兄は手帳の端に左の如く認められました。

涅槃宿

目的

一、如來法によりてのみ人間生活は徹底的に安定することを實證す

二、家庭、親族、故舊、社會より流離し、健康に見離されたる落伍者の爲に、彼等が中心の要求たる『生命の眞淸水』を供給する事により法悅と健康と社會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

とに還らしめ、最も有用なる（無私の生き通しの故に）國家の一員たらしむ。

恐らくは、兄は最後まで、此の理想の實現の爲に努力されて居られたらうと思ひます。よし兄の思ふ事のどれだけが實現されたにしろ、兄のその眞劒な努力は、本當に尊いもので御座います。兄の死は私にとつて本當に悲しい事であつたのです。いつも私の爲に祈り、お光の名によつて慰め勵ましてくれた唯一の人で御座いますから、片腕をとられたよりも大きな悲しみでした。併し肉體的に去られても、尚自分の傍近く生きて居られると云ふ事は信じないでは居られません。兄と共に生活した時の事を思へば、何とも云へぬ氣が致します。あの頃は本當に淨い生活でした。信仰に燃えて居りました。それを思へば今の生活の不精進を悲しまずには居られません。兄の一生を考へ、自分の今の生活を思へばぢつとしては居られない様な氣がします。一燈園の同人のひとりに入れて頂き光よりの過分なお惠みに對しても、自分の生活や仕事を淨化して行かなければならないと思ひます。

兄の一週忌夜、師のアトリエにて

あゝ懷しき友

櫻井透

眞葷社良帝上人光家和尚　南無阿彌陀佛

空然氏の影は生けるが如く動いてゐる。或は權威ある容姿となり或は光顏巍々となりて現れます。徹底的懺悔報恩の奉仕者の氏が寺の御堂の一室に深く靜座默禱をさゝぐる言葉を思ひ出せば夢の如く、生ける姿となりて不思議にも、極惡深罪の自分に敬虔の心を叫び覺して下さる、氏の言葉や人格に觸れた時より最後の別れまでそれはごく、私に取つて短かかりしが、私の穢れた魂を深淵より救うて下さつた、有難いまた一生忘れられない友でありました。

空然氏は春とは云ひながら、また寒い風の吹く頃突然旅立せられました。御便りは

『如來の御試練を受けん爲めに突然旅立いたし候處々有難い事のみ多く、感激に堪へず候

ふるさとを戀ふる心のつれなさに
旅立つ春のあはれなるかも。

治生産業是實相　南無阿彌陀佛

ある日深網笠を冠り法衣を着た旅僧に、ふと出逢ひました。それは空然氏にて氏は合掌默禱して、旅立たれた後の事を、くはしく語りました。旅立ちた二日目に御山といふ山と山の間にある小さな部落で、そこに或る老夫婦ばかりの貧しき家に訪れた時、その家の老主人は重き病にて、醫藥を運ぶ人もなく、老夫婦はなげき居る樣を見て、どうしても其の家を去るに忍びずして氏は翌日から町の醫まで二里餘りある處を托鉢してその歸りに藥を運び、歸つてからは病人の看護をさせ

て頂く事となり今日も藥を取つて歸る處です。と語られました。氏は自分の病後の身をも打忘れて、いかにも自己の病に患りたるが如くに語られた樣は自他一體感を體驗した人でなければ出來ざる事と深く感激いたしました

約一ケ月も過ぎた頃寺にて春蠶を掃立てたので、それに手傳ふ爲めに途中より歸られました翌日氏は早速私の家を訪ね旅行中にありし事をこま〲物語りました。其の後老主人の家に約十五日ばかり居て病氣看護いたし老主人も氏の熱心に親切に看護し神佛に御すがり尊い信心によつて、やうやく全快に趣き、氏は喜んで其の家を去つたと話されました。

氏はそれから養蠶の手傳をいたし、旅の疲勞に無理して働いた爲めか、以前の病氣再發の氣味にて歩行も困難な位になりました。それに靜座法を行つた爲めに腹が痛み急性の下痢となり一層衰弱語たしたのであります。實家に歸られて、ひたすら保養いたして居りました。私も一二度訪問して御見舞いたしましたが、見るもいたましき姿となりました。當時いろ〱信仰上の話もうけ賜はりましたが、記憶甚だ曖昧なので記し兼ねますたつた一語大香先生に御逢ひなさいと繰り返して語られましたその言葉は强く私の胸に殘つて居ります。

それから程なく、夏の終りの頃、太陽の光は輝いて外を歩くにも容易でないある日の午後、私しは停車場に何かの用で參りました。

丁度空然氏は原町の醫に參るとて汽車を待つてゐられました。氏は杖にすがりて非常に驚かれた樣にして私を見ました、私はあの衰弱した身體を汽車に乘せるのは餘り無理ではないかと懸念して、

『病氣は如何ですか、汽車に乘つては心配ではありませんか』と尋ねましたすると氏は病や身の事などは忘れてゐるかの樣に

『少しの不安も感じません』と答へました。そのうち汽車が來たので氏はプラツトホームに出たので互に合掌して別れました。これが最後の言葉であり最後の別れでありました。ああかなしい哉

最後に於ける高屋兄

若松せい

私が兄と知り合ひになつたのは大正四年の秋頃であつたか何でも兄が神白といふ小字の分敎場に少しの間小さな子供を相手にしてゐられた時分で、まだ十六七だつた私は唯何となく靜かな姿が尊敬されて、高屋さんはいまにきつと偉くなるなど其の人の前でいつては笑はした事もある。

何事も考い深い眞面目な落ちついた態度が誰にも好感を與へて、一口にいへば誰からも愛し懷しまれる德を有つて居ら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れたやうであつた。私はよく姉と一緒に燒芋を脊負うて一里近い田舍道を兄の宿まで訪れる事も度々あつたし、兄も亦よく遊びに來られた。

其の頃兄は髮の毛を長くしてゐたので、いたづらな私などはリボンを結ぶと似合ふかしれないなどと眞顏でいつたのを今でも覺えて居る。

翌五年の早春京都にゆかれた。どういふ譯でゆかれたか、其の邊のいきさつに就いては勿論私達は知らなかつたが何れ新生活に入る首途であるやうには察せられた。ゆかれてからも時折りは書信を寄せられたので、その斷片的な言葉から朧氣ながらも樣子をうかゞふ事が出來た。

京都を去られて一度故里へ歸られた時、訪れるといふ便りを寄來されたがどういふ都合かいらつしやらなかつた。そんなこんなの間に五年といふ年月が流れて往つた。兄からの便りは最後の一年間位ふつつり絕えてしまつたのでどうした事かと思ひながら矢張り京都に居られるものと思つてゐた。

ところが今年の三月上旬、不意にたづねて來られた兄も私を見違がへたが、私もすつかり見忘れてしまつた。長い髮は短かくしてあり、顏もずつと瘦せて色艷も非常に惡い。其の夜一泊されて夜更くるまで種々話した。魚を澤山たべさせて上げたら、此の魚を幾年たべなかつたらうといつて非常に喜んで食れた。其の時始めて五年の間の委細をきかされてくだらない私達の生活とはまるで異つたのに深く感じさせられた。

其の時もからだの方は餘程惡かつたらしい。トラピスト修道院に極寒の二月行つたのが、病氣を引起す原因だつたのだといはれたが、どの道起らずにはゐぬ病氣であつたと思ふ。

翌日歸つて行かれたが歸る時もし許されたなら此の夏小名濱の海で靜養したいといふ事をいはれたので、是非とすゝめた。歸つてからも健康の方は思はしくなく、それに弱い身體で烈しく養蠶を手傳ふたりしたのでずんずん惡くなつて行つた。さういふ事をよくいふて寄來されたので私はあなたのおからだはまだ／＼世の中に必要なのだから今からそんな仕事で磨滅さしてしまつたは堪らない。どうか大切にして下さいと度々申し上げたが兄の氣性として矢張り働らく事をやめなかつたらしい。

が七月になつてとうとう濱にゆくといふてよこされたので私は喜んで來るやうに返事を上げた。母も以前から高屋さんには好意を持つてゐたので一ケ月も靜養させて上げるやうにといはれてゐたので其の旨も通じてあげた。七月は八月となつてどうした事か來られない。私は再度迄伺ひ狀を出したがそれにも何等の返辭がなかつた。一體どうした事だらうと心配して居る内に八月の下旬になつて相馬の原町から手紙をよこされた。それには一ケ月程前から此方に來て居る。腸が惡いので其の方を治療せなければどこへも行かれない。濱へも今年は行かれるあてがないからとの事が認めてあつたので

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もそのつもりでゐた。

恰度九月の十一日であつた。宵以來の雨で私は欝陶しい中で裁縫をしてゐた午後四時頃である。稍小降りになつた、ほんやりした戸外から幽靈のやうにふらりと這入つて來た兄に私は先づ驚ろかされた。白地の單衣に草履を穿き長裾のまゝで兩手に中古の鞄と風呂敷包みと洋傘とを重さうに提げて、頭からづぶ濡れに濡れそぼれた蒼い痩せ衰へた姿である。私は無言のまゝ凝視した。兄は私の顏を見ると何ともいへぬ寂しい笑顏をし乍ら、徐ろにどうぞ寢まして下さいといつた。

私は直ぐ座敷に寢床をとつて寢かした。手足などはまるで心臟病者のやうに水氣をもつて丸々しくふくらんで居るのを其時ちらと見て餘程の重態だと思はれた。寢てから十分間ばかり眼を閉ぢて合掌して居られたが、軈て組んだ指を靜かに解いて枕元の私を見上げながら漸く口を開いた。

病氣は肋膜に腸カタルで、腹の方から先きに癒さねば胸も不可ないといふので原町の名醫に診察を受けてゐたがどうも渉々しくない。それに世話になつて居る家が天理教會なので食物なども神の御飯と申して普通のものをよく神にお願ひしていただいてゐた、それも惡かつたと見え、とうてい癒る見込みもないから豐間の回春園に入院してなほしたいと思つて來た。何事も御旨に任せきつたからだではあるけれども徒らに害ふよりは能ふる限り命脈を保つて働らかして貰ふ事がより一層報恩の道であるとしみ〴〵思ふと微笑まれた。

私は兄が身體を大切にする氣分になられた事を喜びながら兎に角二三日宅で休んでから入院するやうにとすゝめたが、どうしても一刻も早く入院したい、明日にもといふので、では天氣さへよくなつたらと約束して兄は眠り私は夕餉の仕度に取りかゝつた。

鷄卵の粥と麩の甘煮とで食事をすゝめたら其の貧しい膳部に心からの合掌をされて二杯程食された後、どうしても明日入院したい。その前に八代義定氏に逢ひたいといはれる。入院するとならば私の力ではどうにもならぬ。矢張り八代氏の助力を俟たねばならぬと私も考へて居たのだが、氏は明朝一番で所用がてら水戸市迄ゆかれる筈になつてゐたので、二三日後ならでは歸宅されないから、明日入院とすれば今夜の內に行つて話して水戸行を變更して貰はねばならぬ。兄も困つたが私も困つた。もう日はすつかり暮れて居る。八代氏の宅迄は一里の寂しい山間道を通つて行かなければならぬ。生憎と星もない雨夜で暗さは暗し、道は惡し、晝間でさへ餘り好い道ではないので、その寂しさを思ふと氣が進まぬ。が兄の身を考へると私は愚圖ついてはゐられぬので、覺悟をして氣の毒がる兄を寢かせ、心配する家人を安心さして置いて唯一人提灯を賴みにはだしで一里の泥道を夢中で氏の宅を叩き、譯を話して翌朝未明に氏と共に濱に歸り、朝飯を濟して直ぐ軌道馬車で豐間に向うた。

からりと晴れた好天氣であつた。昨日の雨に引かへて色づ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

き初めた稲の穂に涼風が吹き渡つてゐた。何といふ好い天氣でせうといへば、私の病氣もよくなるか知れないと空を仰がれた、車窓から見える神白の分教場や、永崎の海岸やを思出深さうに眺め渡しながらも馬車の動揺が苦しいと見えて屢々瞑目しつゝ息を呑み込んでゐられた。

一時間餘も揺られ通しで江名に着いた時は非常に疲れて居られた。降車してから病院迄は二三町のだらだら坂を登つて尚四五町ゆかねばならぬ。兄は苦し氣に一歩一歩曳づるやうに歩まれた。私は今はつきりと其の時の姿が眼に浮ぶ。

夏の名殘りを偲ばせる正午近の陽光の下に白く乾いた坂道を、白い着物に古ぼけた帽子をいたゞき足には草履を結びつけ泉の底のやうに澄んだ眼を地上に落し、苦し氣な息を力なく吐き洋傘を杖にあえぎあえぎ歩まれた姿を。

餘程苦しかつたと見えて坂道の諏訪神社の石段の傍を通る時、休まして貰ふといつて腰かけられた八代氏もかけられた。私は風呂敷包みを持つて道の眞中に立てゐたら兄がせいちやん待遠しいでせうといふ。私は斯んな事で待遠しなどといふ位なら昨夜あの暗い山路を行きはしなかつたといつたら寂びしく笑まれて合掌された私も泣きたいやうな氣分になつた。

元氣を取り直して歩き出し間もなく江名を出外れて廣々した海を控えた豊間の入口に出た。遙かの巖頭に燈臺が白く輝やいてゐた。

八代氏が兄に君は恰度あの燈臺と等しい。油がつきれば燈も消える、消えたら浪の上に漂ふ舟はどこを目宛に漕ぎつけられるか、君のからだにも油がつきかけて居る。今度療養する事は油を注ぐ事なのだから。そして完全な充分な光りを世の悩み迷うて居る者の上に照らし與へなければならぬといはれた。然うですと幾度かうなづかれ、どうして私みたいな者が斯んなに皆様から愛して貰へるか、有りがたい、私は幸福者です、そして皆様のお情けとお力でも私はなほります。癒らなければなりませんと力強くいはれた。

漸く病院についた。松原の中の設備の整うた氣持よい海岸の縣立病院である。生憎日曜日だつたので院長は留守、副院長は平町まで行かれたといふので三時頃まで待たなければならないといふ事であつた。兄はもう疲れ果てて應接室の長椅子に寢たきり身動きもせずにゐた。私は入院の様子を見屆けてから歸りたかつたけれど家の用事もあるので時折り見舞ふ事と網島氏の本を持參する事を固く約して即刻歸つた。

後で滞りなく入院は濟んだが餘程の重態であるといふ事を八代氏からきかされた。八代氏はその夕方急に思ひ立つて一寸上京されたので、唯一人で病院に居る事は寂しからうから見舞はなければならないと心に思ひつゞけ乍らもあれこれと家事に追はれて暇を得ず心苦しいので其の旨を手紙でいうてあけたら十八日付の字體の亂れたはがきを寄來された。暇を得たらどうぞ來て呉れ、果物がたべたいといふやうな意味が書かれてあつたので、私は二十日の午後僅かばかりの果物を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

買ひ求めて梁川氏の回光録と共に一包みにして馬車場まで行つたら恰度八代氏にばつたり出逢ひ、氏は今病院から歸られたところだつたが、今日は病院へ行く事はない腸結核に肺らしく病院では今最も重視して居る病人になつて居る。氣だけは確かで非常に西田天香氏に逢ひたがつて居られるから今打電したところだ。四五日中には京都から來られやうその時は一緒に行つた方がいいと思ふといはれるので、心苦しい乍ら思ひ止まつて家に歸つた。

二十三日の朝早く八代氏が來られて高屋兄の容態が非常に惡いと病院から知らせがあつた。それでどうせ死ぬならば故里ので兄弟の傍で死なしたい。つい親鄕里の兄樣に打電して昨夜來ていただいたから今日退院させて相馬に歸つて貰はうと思ふ。病院迄一緒に行つて呉れまいかとの話しなので、私は他に所用があつたけれど打ち捨てて直ぐ樣氏と共に病院に行つた。病院の第六號室の片隅に衝立に隔てられて重態の兄が横はつてゐられた。私は一眼見て胸のふさがるやうな思ひがした。兄は非常に喜んで氣分の好いといふ事を告げて呉れた。神經が敏くなつて居る兄の心を烈しく動かせまいとして八代氏もいひ難さうに退院をすゝめる旨と兄樣がいらしつた事とを話し終ると流石にそれと察したものか無言で瞑目したまゝ居をふるはしてゐたが、軈て靜かに眼を開くと何事もよろしきやうにといはれた。

八代氏と兄樣とが院長に相談に行かれた後で私は兄といろいろ話した。氏から餘り私を近づけてはならない。若い者だから傳染も早いからと注意されてはゐたがどうしても近づかずにはゐられなかつた。あれほどむくんでゐた手がすつかり痩せてしまつて細く骨立つてゐた。私は何だか譯もなく悲しくなつた兄は痩せた手を出しながらこんなに蚊に喰はれてといつて微笑されたまゝ暫く私の顏をみつめてゐたが、軈て苦し氣にまたゝきすると暑いから窓をあけて下さいといはれた。いはれる通りにあけて上げると今度は寢臺の下に梨があるからお上りといふ。そして此處は非常に靜かだ、寢てゐる枕元迄太陽がのぞいて呉れるからありがたい。どうかしてあの太陽の光りを浴びて砂濱の上に立てる時が與へられたらどんなに嬉しからうといはれるので、私は兄がそんなにあこがれる幸福を自分達は無感覺になる程貪り浴して居る。何といふ贅澤な事でせうと眞面目に申し上げたら笑つて居られた。

其處へ八代氏が來られて私を戸外の松原に呼び出し乍ら、兄の容態は三日と難かしいさうだ。で今日退院さしても途中の生死ははかり難いとの事で、矢張り此の病院に止めて死なした方が好からうとの話しに決めたからと話された。氏は早速兄の枕元に立戻つて、醫師の意見では今動かす事は好影響を與へぬ。矢張り落ちつかして置いた方が好いからと仰しやるから退院は見合はせるといはれたら、兄はさも安心したらしい面持ちで合掌し乍らありがたう。何事も御こゝろのままに任せますといはれた。それで私達ちは四五日はまだ大丈夫

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

だらうと思うたので兄様だけ殘つていたゞいて一應歸宅しやうと暇乞ひをすると、兄は私を止められて殘り惜しさうにもう歸られるのですか、あゝ有りがとうございました私はせいちやんが私へ對しての御親切はどの位感謝して居るか信じて下さい。私は神樣をよく信じてゐます。それから又私はお願があるのです。私は次第によくならうと思ふ。さうすれば色々書きたい事がある。だから原稿用紙を持つて來て欲しい。それに綱島氏の本は是非。それから薄荷の這入つたお菓子がたべたいし、又私に惡くないならレモン水を飲みたいから藥種屋できいて惡くないといつたら持つて來て下さるやうに。それだけをお願ひします。

と興奮されていはれたので、私は皆整へてきつと二三日中に持參するからといつたら、どうぞ來て呉れ、病院は決して恐ろしいところではない、それに隣りに寢て居る病人も四五日中に退院するからそしたら此處はからつとしてしまふから少しも危險でなくなる。其の時は是非來て下さいと自分の病氣については何の顧慮もない口吻であつた。私は家へ歸つたら直ぐに手紙をよこしますからといつたら手紙よりもあなたが來て下さいといはれた。餘程寂しかつたのだらう。

八代氏は廊下の外で久しい間待つてゝ下された。私達が病院を出たのは午後一時でそれから四里の道を所用がてら平にゆき氏は西田氏に即刻來磐を乞ふと打電されて家に歸つた。月の美しい夜であつた。

翌日、兄は死なれた。九月二十四日午前十一時過ぎに唯一人病院に於て。誰が眼にも三四日は大丈夫に思はれたので兄様も國勢調査委員で多忙なところから誰か代りを寄來すからといはれて私達ちが歸つた間もなく歸られたさうで、其の後の誰もゐない中で死なれたのである。

恰度九月の二十四日の兄が逝かれた時刻に私は兄にあげる手紙を書いてゐた。机の左手の床の間には白地の掛物がかけてあつたが、私が書き續けてゐた筆をおいてふと顔をあげた時其の掛物が床の間一杯に白く茫とひろがつたやうに覺えた。刹那脊後から冷水を浴せられたやうにぞつとして思はず身ふるひして氣をとり直すと何でもなかつた。

餘りそんな事を氣にせぬ性分であつたが、其の時何となく高屋さんに何事かあるんぢやないかといふ思ひが湧き上つた手紙は出したが無論それは死後に於てゞあつた。翌二十五日私は始めて逝かれた事を知つたのである。其の夜やかれて翌日兄の遺骨は、兄がかつて自ら提げて來られた鞄の内に納められて兄樣の手に郷里に持ち歸られた。十一日に來られ、十二日に入院、二十四日に死なれ二十六日に歸られる。私は八代氏と泉驛に遺骨を見送つた。」

（九、一一、八、夜）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

西田天香著

懺悔の生活

六十版

價貳圓五拾錢

送料拾四錢

▼洛外鹿ヶ谷に褐衣縄帯の一團あり、名けて一燈園と云ふ。同人は一物半銭を所有せず、常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、行乞す

▼西田氏は一燈園の統率者也。本書は氏が求道十七年の難苦と法悦とを語り、併せて一燈園同人の行事、逸話を批判したる極東現世の使徒行傳とも言ふべき尊き書也

▼本書の賣行燎原の火の如く今秋出版界驚異の的となれるは悩める心に力を痛める心に慰さめを、迷へる心に信念を與ふれば也。求めて未だ與へられざる心の飢渇者必讀の書也。

宮崎安右衛門著

永遠の幻

好評五版

價壹圓九拾錢

送料貳拾錢

本書は別に題して『野の言葉と蜜蜂の生活』と言ふ。一面敬虔なる宗教心の所有者たる宮崎氏は他面に於て純眞なる自然詩人也。馬糞、睡蓮、電信柱、星の唆き、章魚の足その他、美醜を問はず、眼に觸るる限りのものを詩化して、朗かなるリズムを織り出づ。殊に著者が幽棲の傍りに飼育せる蜜蜂に對する濃かなる愛と、細微なる觀察とは、恍惚として讀者を酔しめずんば止まず。大自然の奏で出づる永遠と神秘の樂音を聽かんとする士の一讀を俟つ。

發行所 東京市神田區表神保町一〇 春秋社 振替東京二四八六一 電話神田二一三八

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

加藤一夫著

幻滅への彼方

著作集第四編
定價金壹圓八拾錢
送料金拾錢

これ前半を雜誌『中外』の復活號に掲げて世評を高うせるもの、新たに後半を書き加へて一卷とす。文壇意識に終始せる大小の作家、悉く疲痺せる時、此の雄篇を公けにして汎く眞價を問はんとするは、著者に充分の自信あればなり。信仰と戀に迷ふ一少女の魂の記錄にして著者が偉大なる人道的精神全卷に滂薄す。

上野松峯著

漂泊の人西行

五版
定價金壹圓五拾錢
送料拾錢

これ戀の人、煩惱の人、詩歌の人にしてかねて寂靜の哲人たる西行法師が壯年胸裏に惱みの萌し初めし頃より、遂に晩年一杖、一鉢身を行雲流水に托するに到りし心的發達を詳描細叙す。これ体を小說に假れる歷史と云ふも可想を歷史に托せる小說と云ふも可、然れども構想の關係より史實を縱に改めたる所謂歷史小說には非る也。

宮島新三郎著

近代文明の先驅者

再版
定價金壹圓七拾錢
送料金拾錢

精緻の鑑賞、温雅の見識を以て、新早稻田の代表的批評家と稱せらるる宮島氏の處女論文集也。二十世紀の兩預言として並稱さるるカアペンタア、トルストイを初め英獨佛露米の代表的文豪を論評し、その間自ら文明思潮の流動、推移を了察せしむ。これ臨溢の解釋に非ず、乾燥の講話に非ず、自家獨自の研究を平明流暢に記述せし絕好の文藝入門書也。

發行所 東京市神田區表神保町一〇 春秋社 振替東京二四八六一 電話神田二一三八

大正十年八月五日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN